

# HT660

## 利用の手引き



発行：2006年6月

## 目 次

<b>第 1 章 概要</b>	<b>4</b>
<b>第 2 章 Unitech のアプリケーション</b>	<b>5</b>
2.1 Bootmode(ブートモード)	5
2.2 I/O Card Control(I/O カードコントロール)	7
2.3 RegFuncKey(ファンクションキー登録)	9
2.4 Registry Backup(レジストリバックアップ)	11
2.5 Scanner Settings (スキャナ設定)	12
2.6 Virtual Keys(バーチャルキー)	28
2.7 Func 9 (システム情報)	29
2.8 GetVK	30
2.9 Scan2Key	31
2.10 Uniping	32
2.11 PCLink	36
<b>第 3 章 “Windows” の下のツールとアプリケーション</b>	<b>38</b>
3.1 ActiveNet	38
3.2 Calibration(画面補正)	41
3.3 Net	42
3.4 Screen Rotation(スクリーンの回転)	44
3.5 Taskman(タスクマネージャ)	46
3.6 wceload	47
<b>第 4 章 コントロールパネル</b>	<b>48</b>
4.1 Backlight(バックライト)	49
4.2 CPU Speed(CPU スピード)	51
4.3 日付/時刻	52
4.4 画面	53
4.5 入力パネル	55
4.6 キーボード	57
4.7 ネットワークとダイアルアップ接続	59
4.8 所有者情報	60
4.9 パスワード	62
4.10 PC との接続	63

4.11	パワーマネージメント	65
4.12	地域	67
4.13	アプリケーションの削除	70
4.14	記憶域マネージャ	71
4.15	スタイラス	74
4.16	システム	75
4.17	ボリューム & サウンド	77
<b>第5章</b>	<b>使用可能なファンクションキー</b>	<b>80</b>
5.1	Func + Esc	80
5.2	Func + 上矢印キー	81
5.3	Func + 6	81
5.4	Func + 7	82
5.5	Func + 8	82
5.6	Func + 9	83
<b>第6章</b>	<b>PRISM ドライバ、bluetooth と GPRS</b>	<b>84</b>
6.1	Microsoft PRISM ドライバ	84
6.2	Bluetooth Manager (マネージャ)	87
<b>第7章</b>	<b>WiFi ツール</b>	<b>89</b>
7.1	概要 & インストール	89
7.2	DHCP ツールの操作	89
7.3	Signal Strength Tool(信号強度ツール)の操作	90
7.4	RF Power(出力) ツールの操作	91

## 第 1 章 概要

この利用の手引きは、Unitech のアプリケーション、“Windows”フォルダにある便利なアプリケーションプログラム、そしてコントロールパネルのアプリケーション設定、そして.NET 5.0 環境におけるファンクションキーの使い方を説明しています。

\* 本書はファームウェアのバージョン V2.00.06 をもとにしています。

## 第 2 章 Unitech のアプリケーション

本章ではファームウェアに組み込まれている Unitech 製のアプリケーションについて説明しています。これらのアプリケーションは標準の Windows CE アプリケーション以外にユーザに提供する機能です。

### Unitech 製のアプリケーション

1. Bootmode(ブートモード)
2. I/O Card Control(I/O カードコントロール)
3. REGFUNCKEY (ファンクションキー登録)
4. Registry Backup (レジストリバックアップ)
5. Scanner Setting (スキャナ設定)
6. Virtual Keys (バーチャルキー)
7. Device Info (デバイス情報)
8. GetVK
9. Scan2Key
10. UniPing
11. PCLink

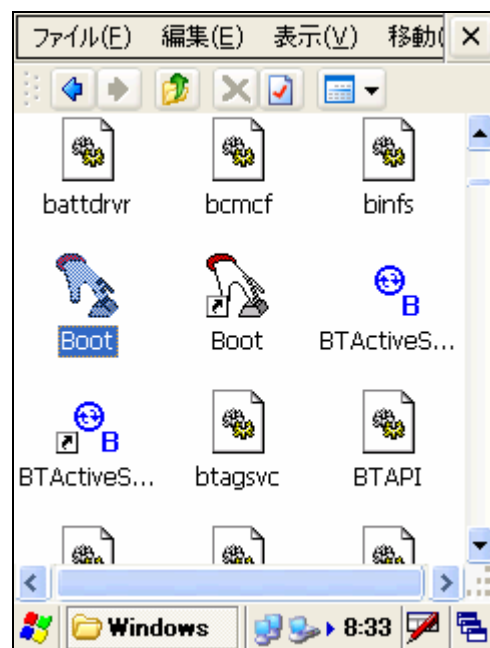
#### 2.1 Bootmode (ブートモード)

パス: マイコンピュータ/Windows/Boot.exe

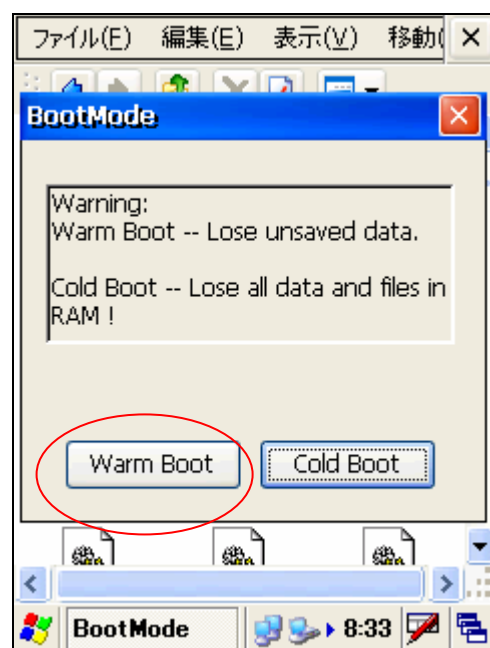
このツールはウォームブート、コールドブート、また必要な場合は OS のアップデートを実行することができます。

##### ウォームブート

1. “Boot” をダブルタップします。



2. “Warm Boot” をタップします。システムは再起動します。



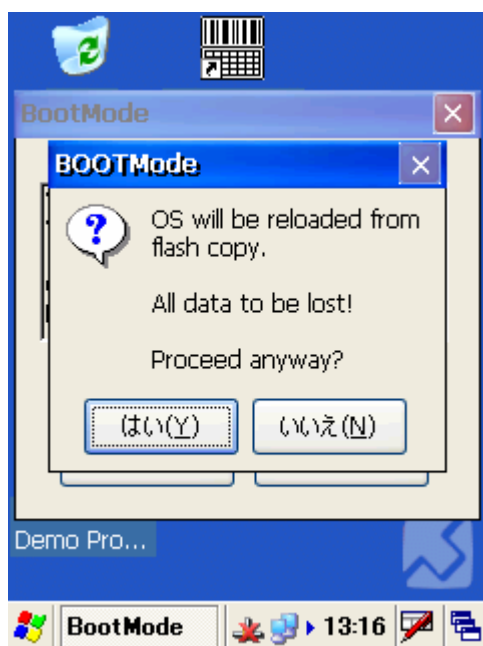
## コールドブート

**注意: まずデータのバックアップを行ってください。**

1. “Boot”をダブルタップします。“Cold Boot”をタップします。
2. ターミナルはコールドスタートします。
3. スクリーンをキャリプレートするために“+”をタップします。“Enter”を押します。
4. 日付と時刻をセットし、OKを押します。

## Update OS (OS のアップデート)

1. “Windows/Boot” をダブルタップします。
2. “Cold Boot” をタップします。
3. Update OS ウィンドウがポップアップします。OS will be reloaded from flash copy. Proceed anyway? Proceed anyway? の質問に “0” キーを押したまま “Yes” をタップします。



4. システムは Bootloader スクリーンに入ります。OS をアップデートするための準備ができました。

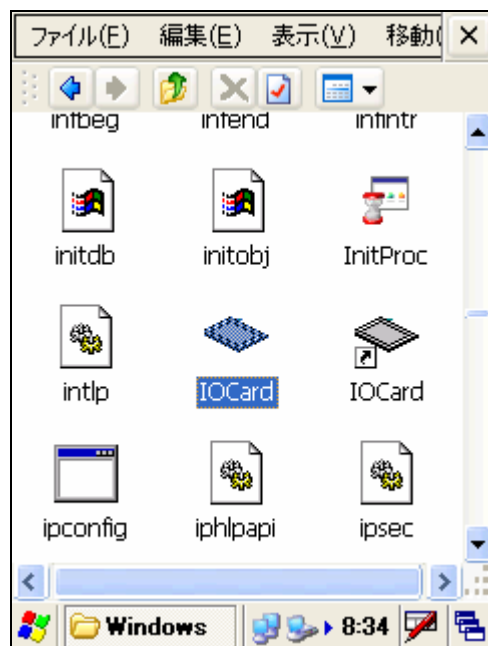
*注意: OS のアップグレードについての詳細は、HT660 サービスマニュアルに書かれています。OS のアップグレードはサービス技術者以外には行わないで下さい。*

## 2.2 I/O Card Control (I/O カードコントロール)

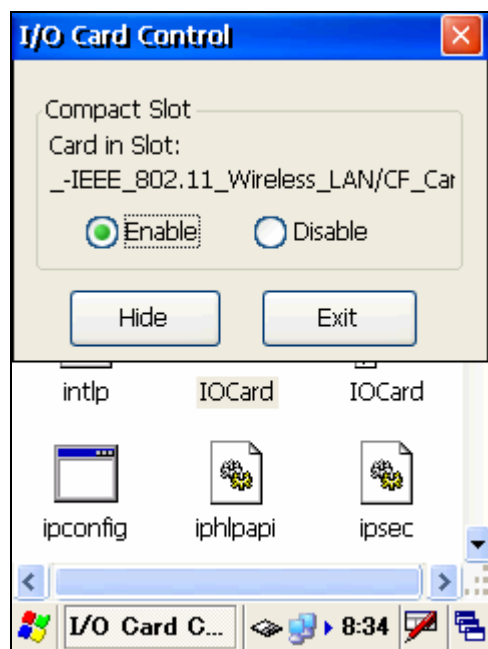
パス: マイコンピュータ/Windows/IOCard.exe

このツールは必要に応じて無線 LAN を収容している CF スロットを有効または無効にします。スロットを無効にした場合、無線 LAN カードは再度スロットを有効にするまで働きません。

1. “IOCard” をダブルタップします。



2. “Disable” をタップすると無線 LAN カードは動かなくなります。



3. I/O Card Control ウィンドウを隠すには “Hide” をタップします。

4. I/O card control を終了するには “Exit” をタップします。



## 2.3 RegFuncKey

パス: マイコンピュータ/Windows/RegFuncKey.exe

このツールはファンクションキーの定義を変えることができます。

標準値は以下の通りです:

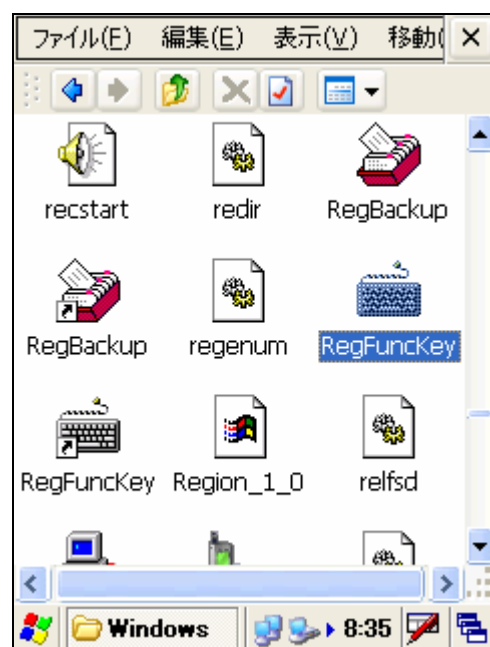
Func 6 = タスクマネージャ

Func 7 = スキャナ設定

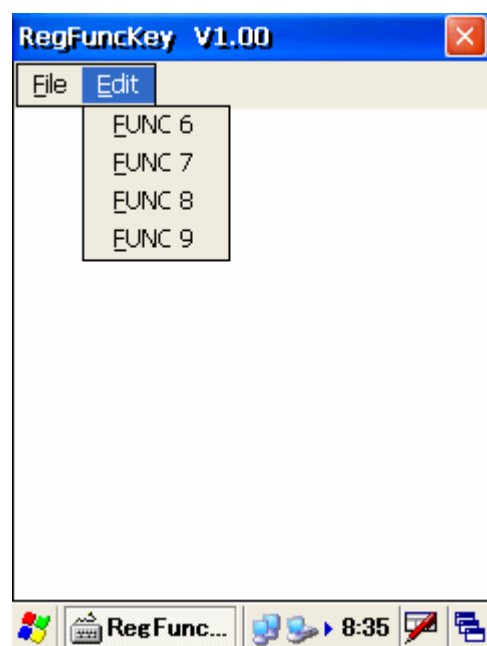
Func 8 = パワーマネージメント

Func 9 = デバイス情報

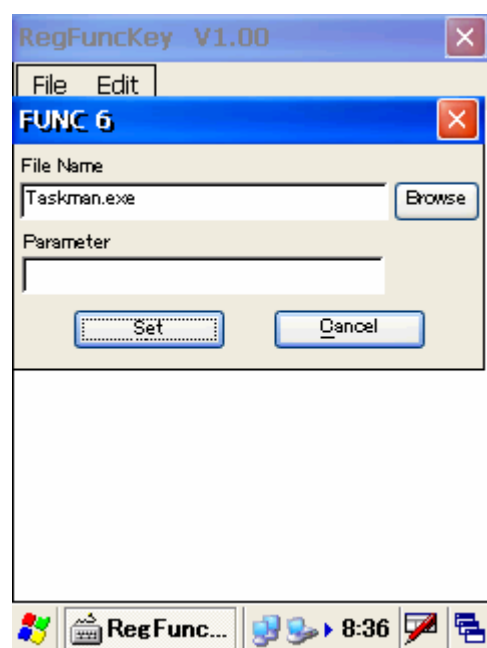
1. “REGFUNCKEY”をダブルタップします。



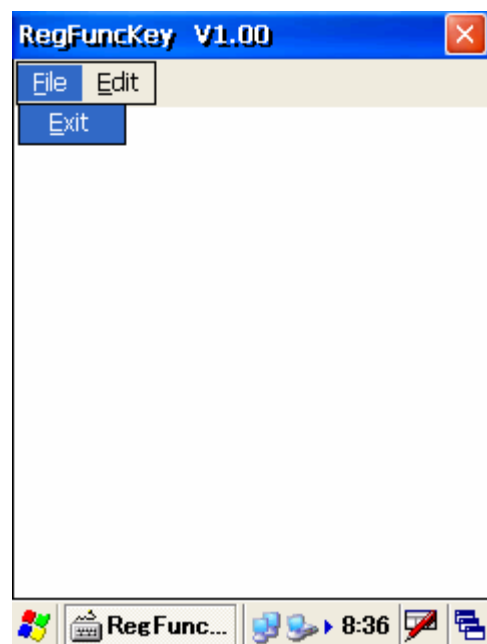
2. “Edit”の下で、“FUNC 6”を選択します。



3. “Browse”をタップします。Func 6 で実行したいアプリケーションを選択します。例えば、“Bootmode.exe”を選択します。



4. “Set” をタップします。
5. “File”の下で、“Exit”をタップします。



6. “Func” + “6” を押します。第 2.1 章のステップ 2 の、“Bootmode” ウィンドウがポップアップします。

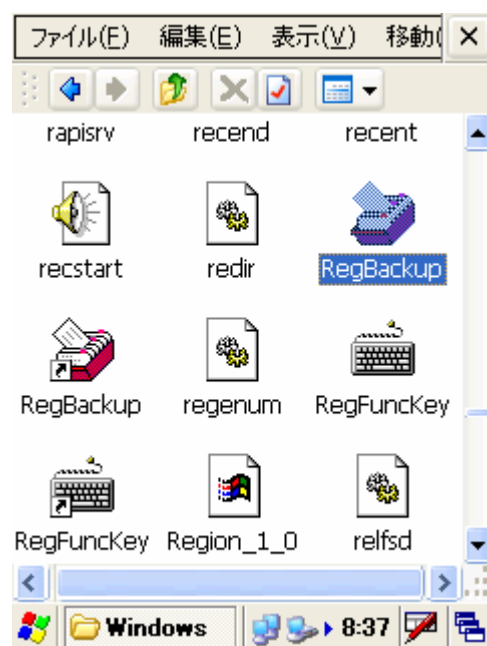
7. Func 7, 8 と 9 の設定変更をするには上記のステップを繰り返します。

## 2.4 Registry Backup(レジストリバックアップ)

Path: /My Computer/Windows/RegBackup.exe

本ツールは現在のレジストリを保存もしくは標準値にリセットします。

1. “RegBackup” をダブルタップします。



2. 現在のレジストリ設定を保存するには“Save”をタップします。



3. あるいは、レジストリを工場出荷時の標準値に戻すために“Restore”をタップします。ターミナルはウォームスタートします。(レジストリ設定が以前に保存されている場合には“Restore”ボタンは灰色になることにご注意ください。)

## 2.5 Scanner Settings(スキャナ設定)

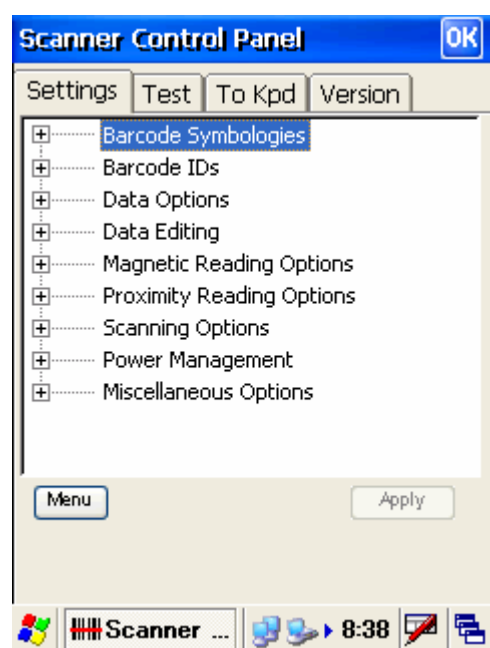
パス: コントロールパネル/Scanner Settings.exe

このツールは、バーコードシンボル、バーコード ID、データオプション、データ編集、そしてスキャナ動作を変更するためのスキャンオプション等のスキャナ設定を行うことができます。また、スキャナのテストを行うことができます。設定を変更するたびに、変更を有効にするために“Apply”ボタンをクリックして下さい。

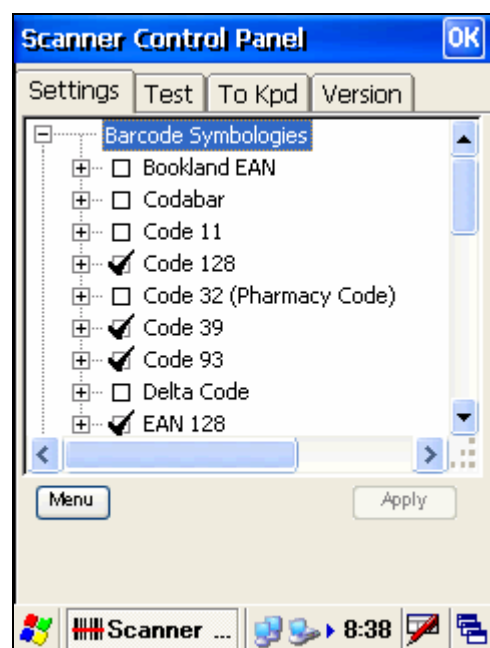
1. “Scanner Settings”をダブルタップして下さい。



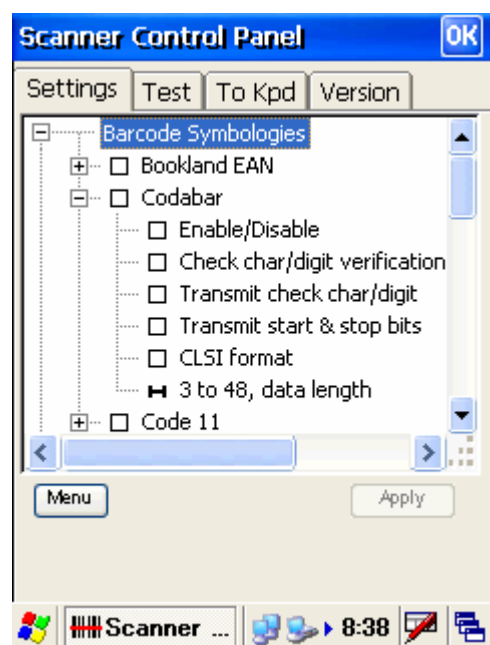
2. “Setting” タブの下で、“Barcode Symbologies” をタップして下さい。



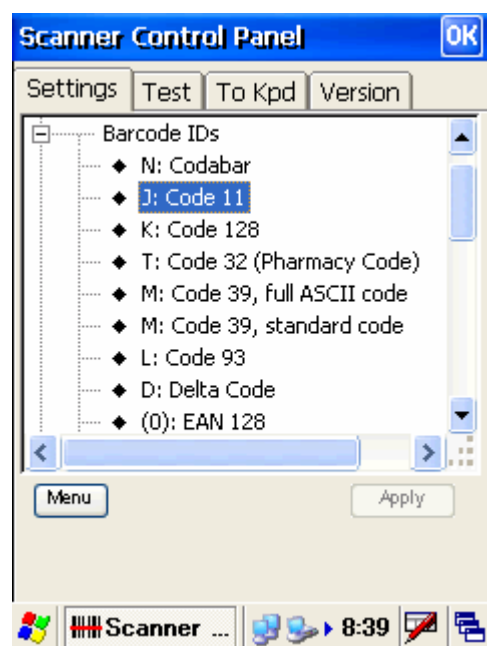
3. “Barcode Symbologies” の前の”+” をタップして下さい。バーコードの種類  
のリストが見えます。



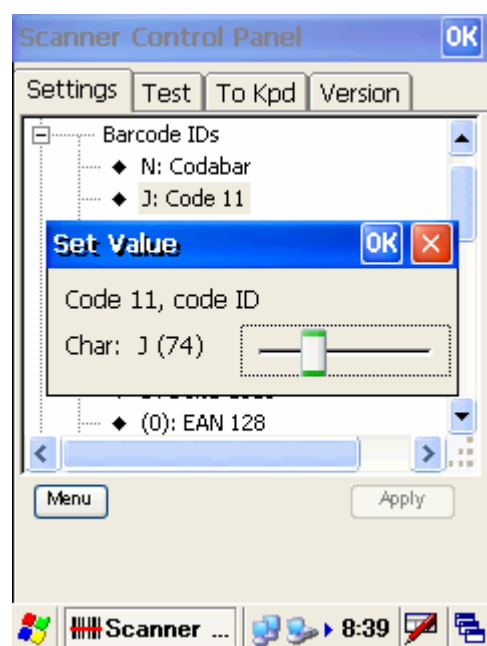
4. ツリーを拡げるために“+”をタップして下さい。各バーコードタイプの下に、Enable/Disable、Check digit verification、Transmit check digit 等の多数のオプションがあります。バーコードに適用したいオプションをチェックします。そして、“Apply”ボタンをタップして下さい。



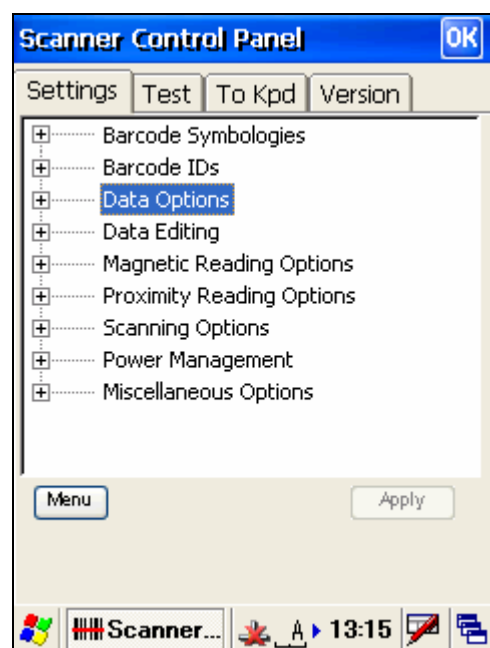
5. スキャナのデコードは指定したとおりに働きます。
6. “Barcode IDs” をタップして下さい。バーコードタイプのリストが先頭にその ID を付けて表示されます。



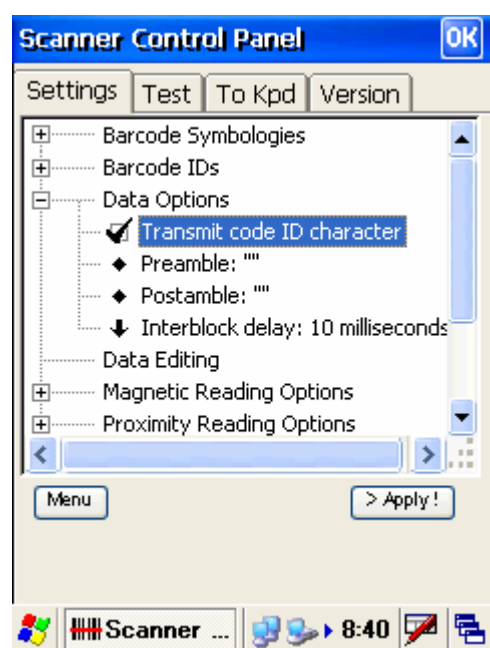
7. ID を変更したいバーコードタイプをダブルタップします。(例: D: EAN13). ボタンをスクロールして他の ID に変更します。 OK をタップします。



8. “Data Options” をタップします。

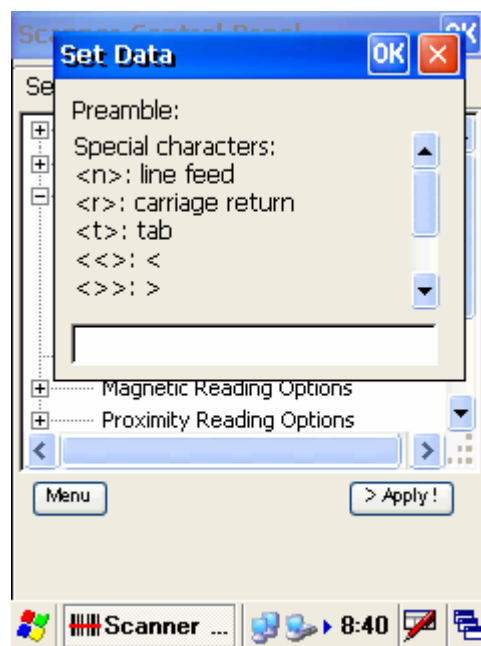
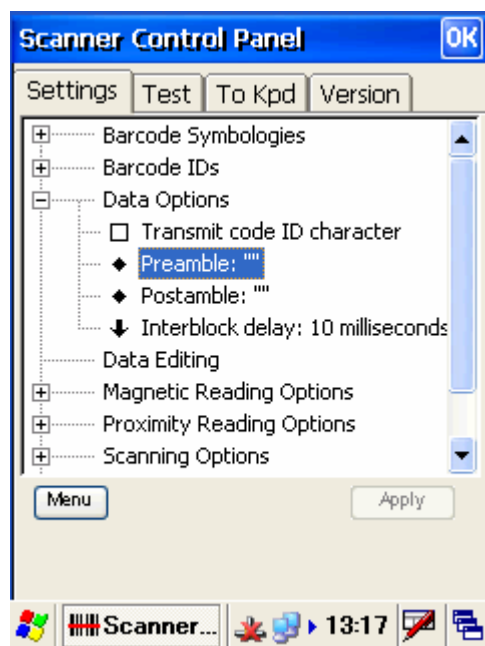


9. コードIDを送信したい場合、“Transmit code ID character” をタップします。

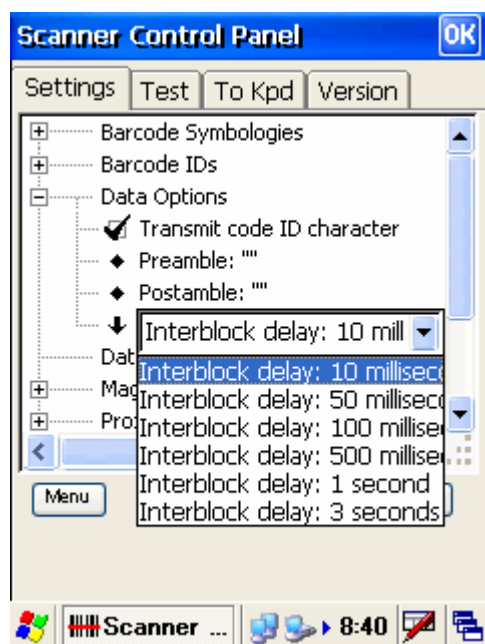


10. バーコードにプリアンブルまたはポストアンブルを追加したい場合、“Preamble” または “Postamble” をタップします。Set Data ウィンドウにある特殊文字をキー入力します。“OK” をタップします。

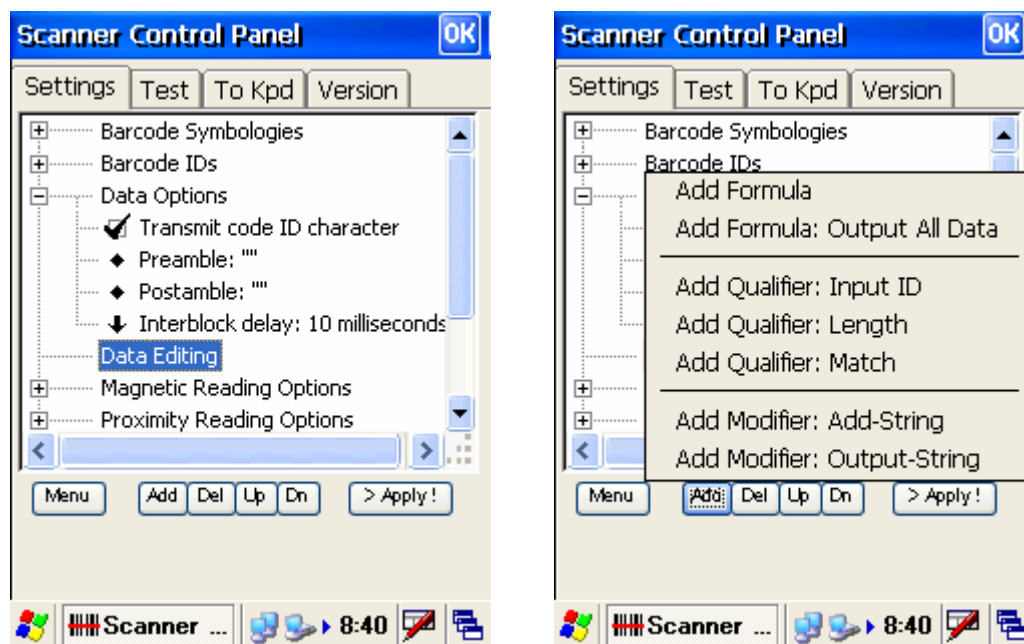




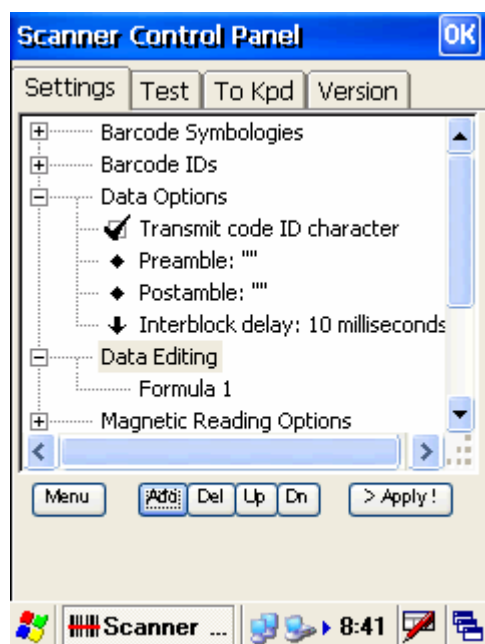
11. “Interblock delay” をダブルタップします。ドロップダウンリストから遅延時間を選択します。



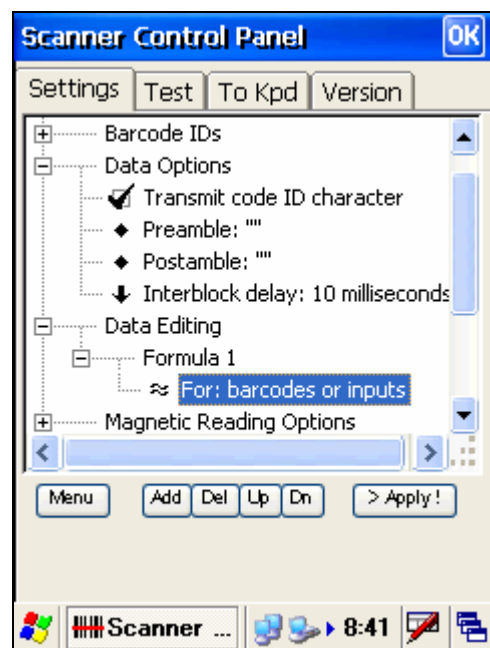
12. “Data Editing” をタップします。下部の “Add” をタップします。メニューがポップアップします。



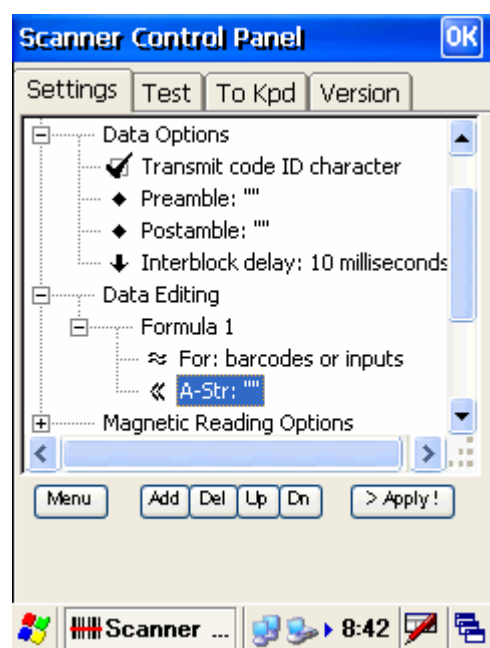
13. “Add Formula” または “Add Formula: Output All Data” を選択します。Formula が “Data editing” の下に追加されます。



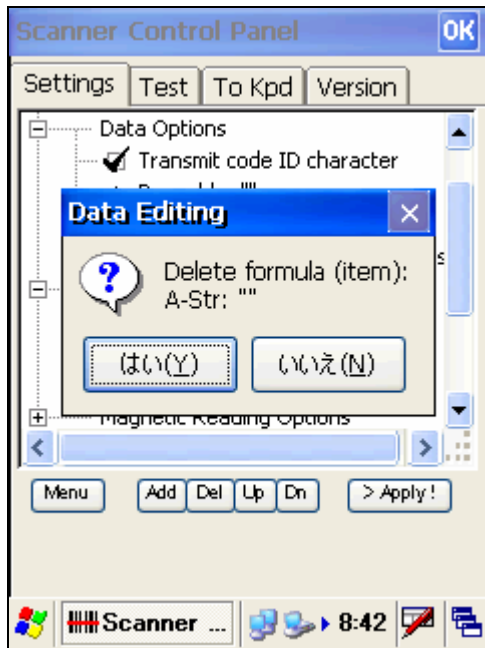
14. “Formula1” をタップします。“Add” ボタンをタップします。“Add Qualifier”を選択します。



15. 追加した qualifier をタップします。“Add” ボタンをタップします。  
“Add modifier” を選択します。

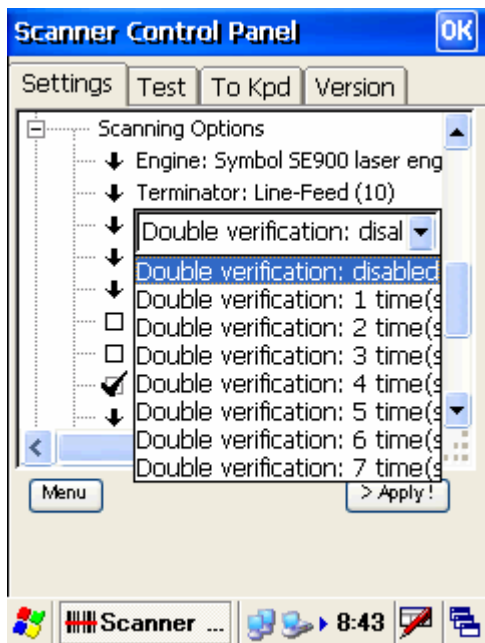


16. Formula または Qualifier または Modifier を削除するには、これらをタップして、“Del” ボタンをタップします。

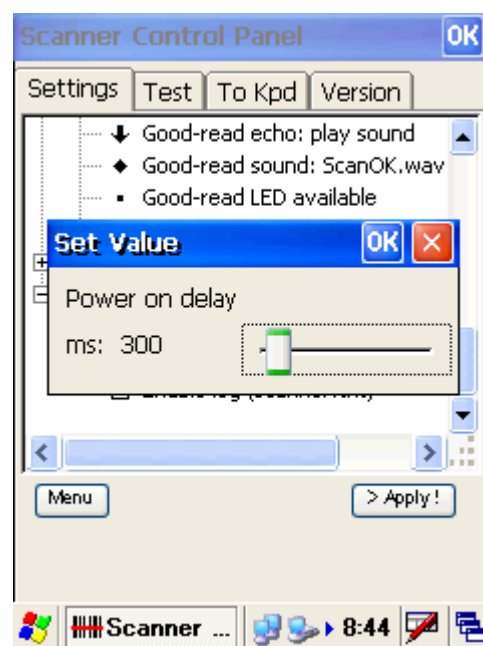
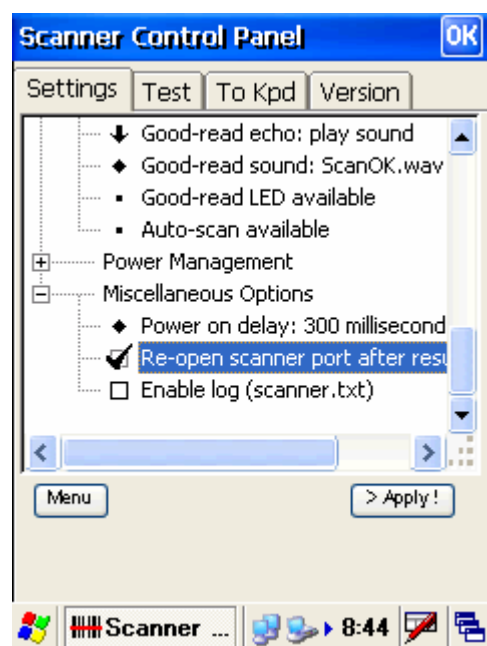


17. Formula を追加するには、“Data Editing” をタップして、“Add” をタップし、“Add Formula” を選択します。

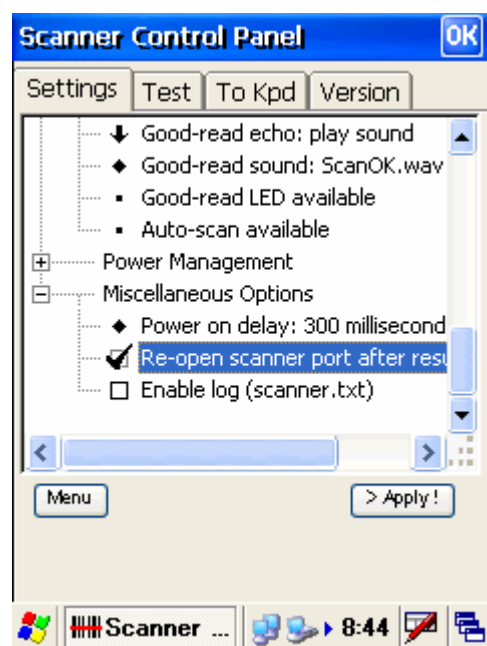
18. “Scanning Options”をタップします。設定を行うには下のオプションをダブルタップします。



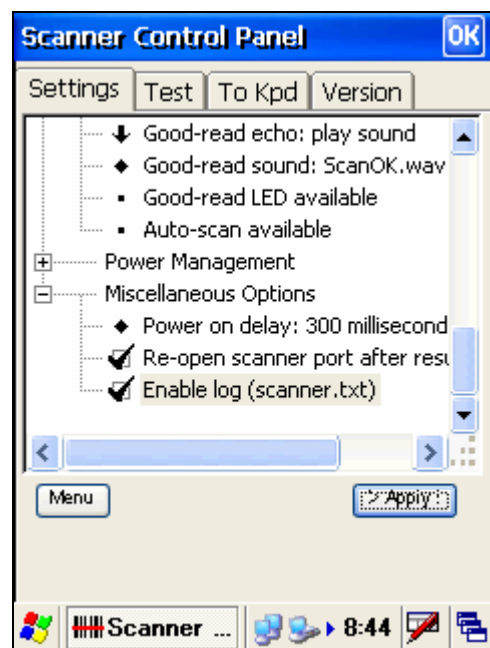
19. “Miscellaneous Options” をタップします。“Power on delay: 300(ms)”をダブルタップします。遅延を定義するためにドラッグします。”OK” をタップします。



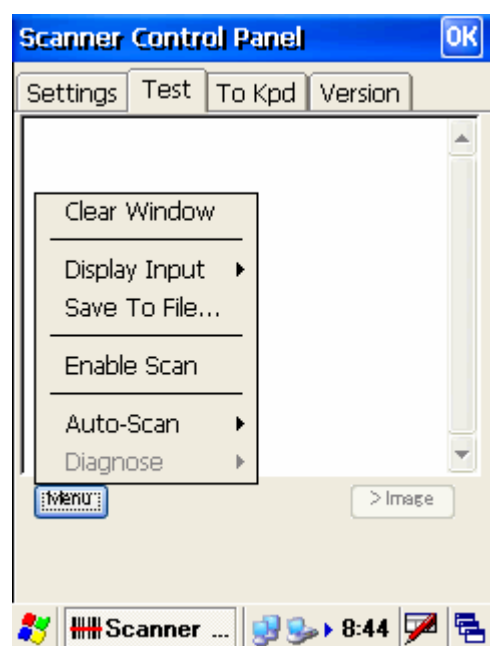
20. “Re-open scanner port after resume” をチェックします。スキャナポートはサスペンド後そしてターミナルに電源が入れられたときに再度オープンされます。



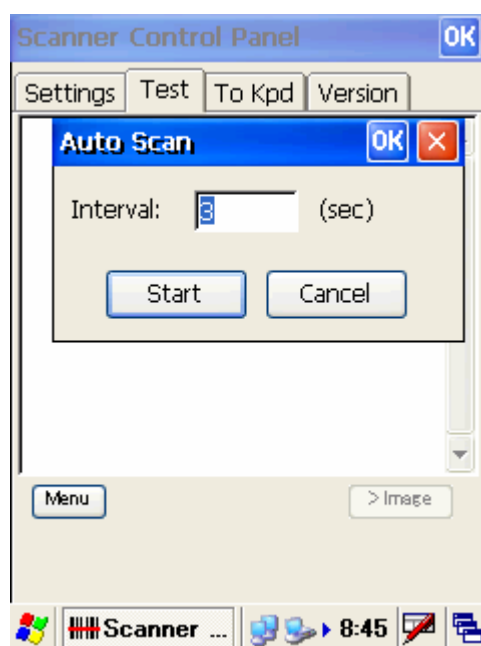
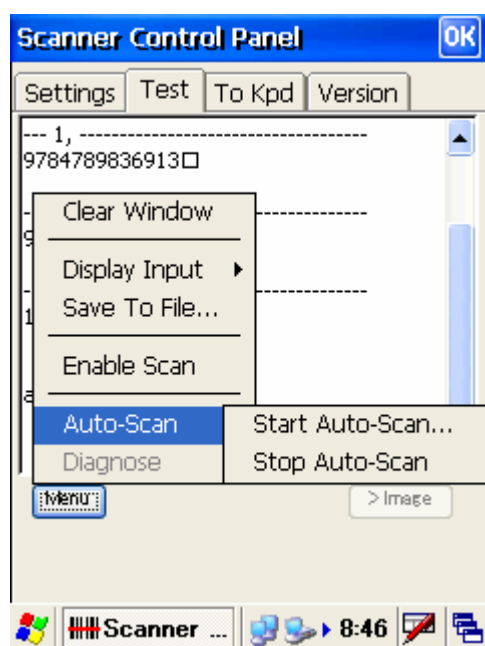
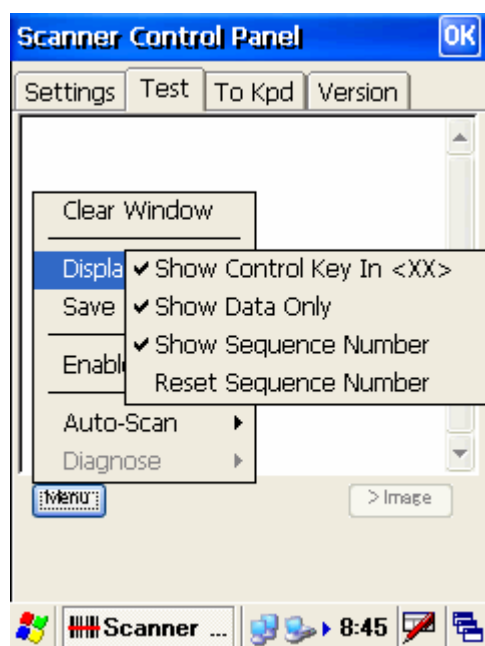
21. “Enable log” をチェックします。スキャンするデータは“マイコンピュータ”の下に scanner.txt として記録されます。



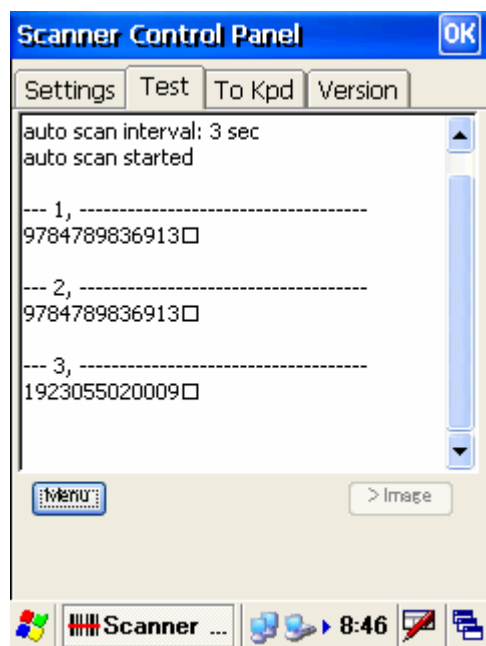
22. “Test” タブの下で、下部の “Menu” ボタンをタップします。メニュー選択のリストがあります。



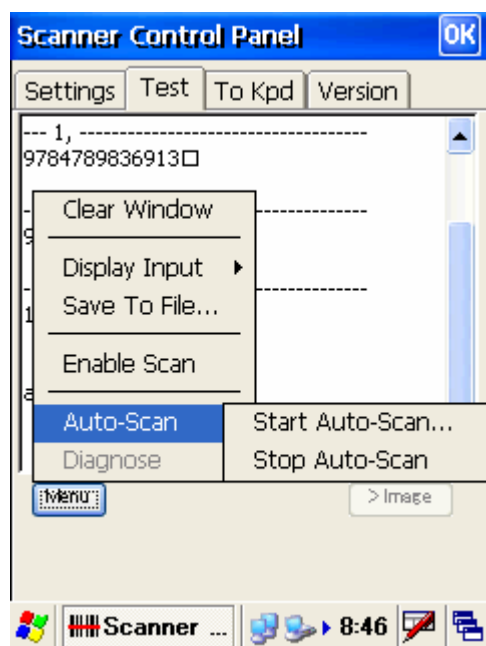
23. “Show Data Only” を選択します。“Start Auto-Scan” を選択します。レーザを発射したい時間間隔をセットします。(例: 3 秒)。“Start” をタップします。



24. レーザが3秒ごとに発射されます。バーコードにレーザヘッドを向けて下さい。バーコードが読まれ、スクリーンに表示されます。

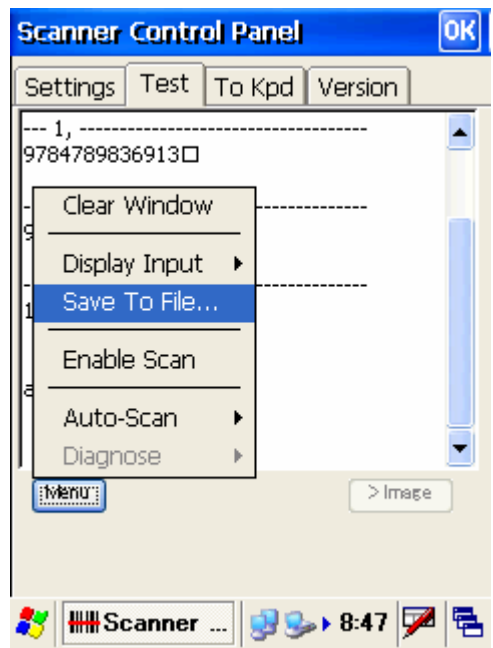


25. “Menu” をタップします。“ Stop Auto-Scan”を選択します。レーザの発射が止まります。

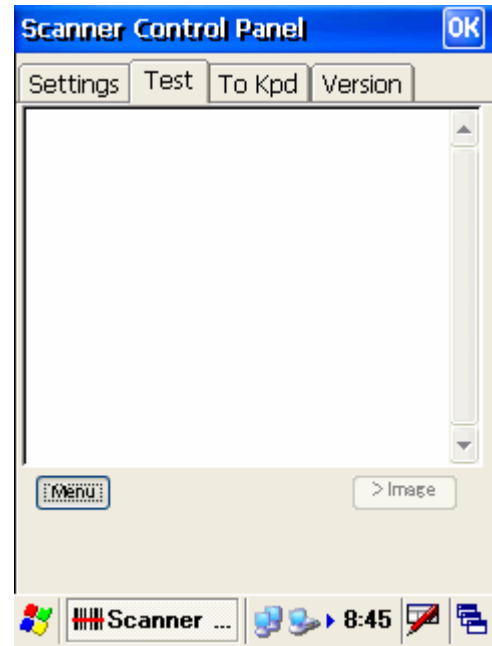
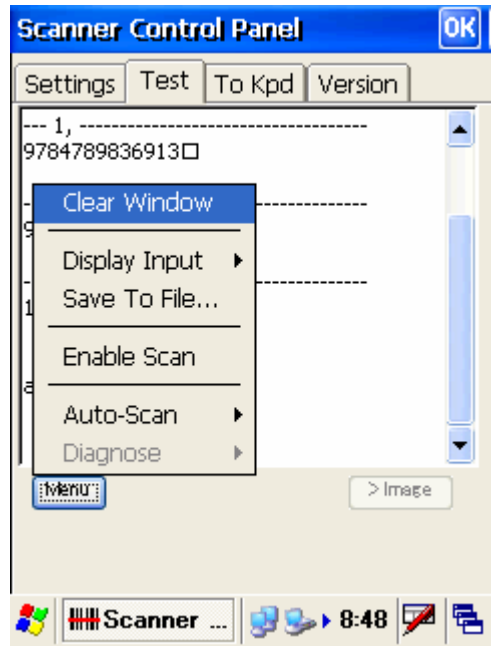


26. “Menu” をタップします。Save To File...” を選択します。データファイルを保存したいディレクトリを指定し、ファイル名を入力します。

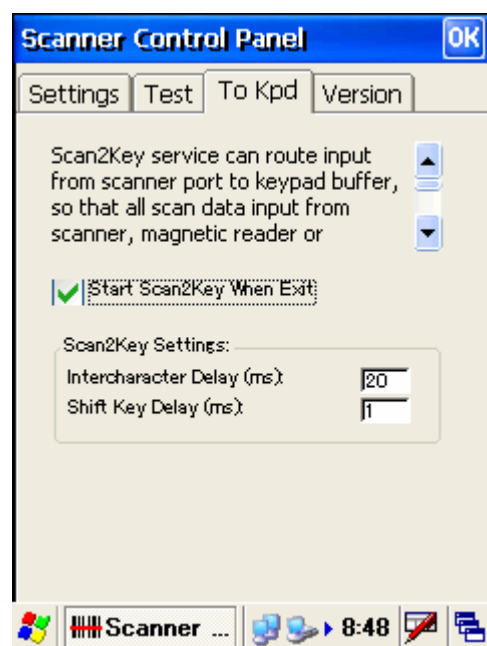




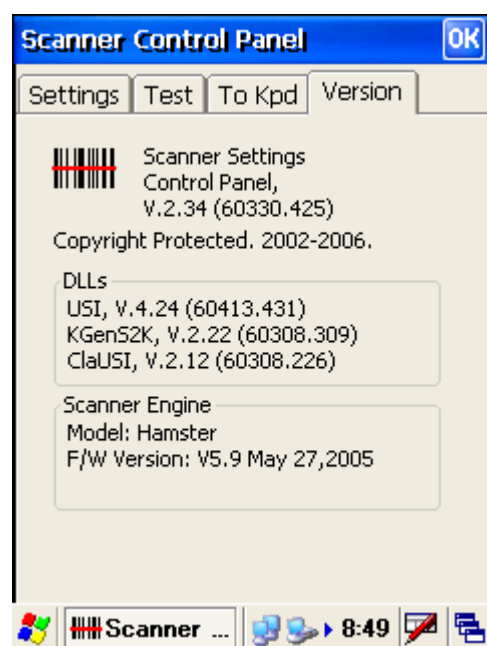
27. “Menu” をタップします。“Clear Window” を選択します。内容はクリアされます。



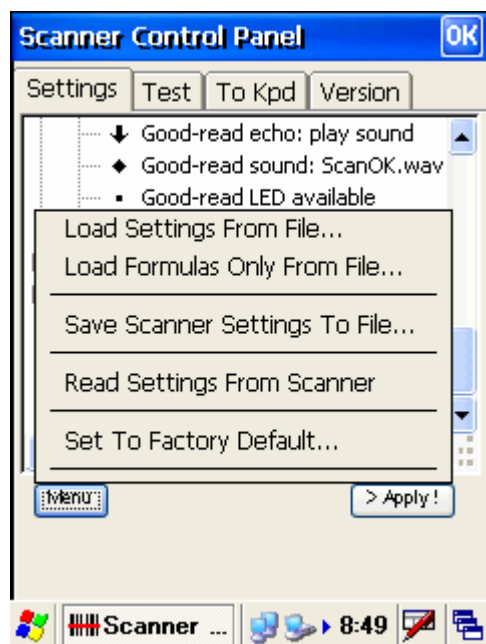
28. “To Kpd” タブの下で、“Start Scan2key When Exit” をチェックしてください。そして “OK” をタップします。  
Scan2Key アイコンがタスクバーに表示されます。送信するデータ間の遅延時間の定義をすることもできますし標準のままにすることもできます。



29. “Version” タブをタップします。スクリーンは Hamster デコーダの一般的な情報を表示します。



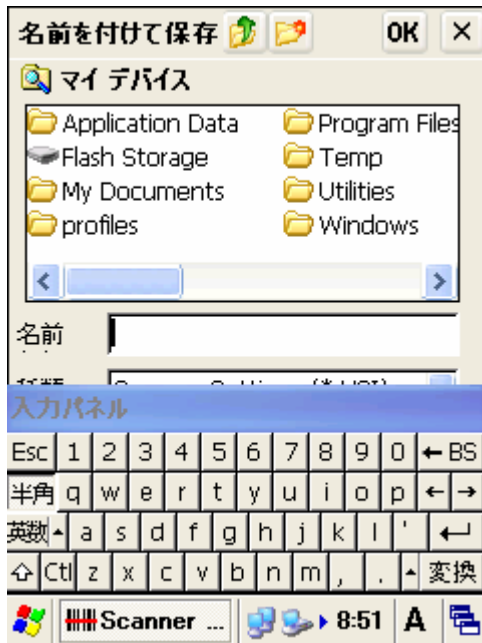
30. “Settings” タブに戻ります。下部の “Menu” をタップします。選択メニューがポップアップします。



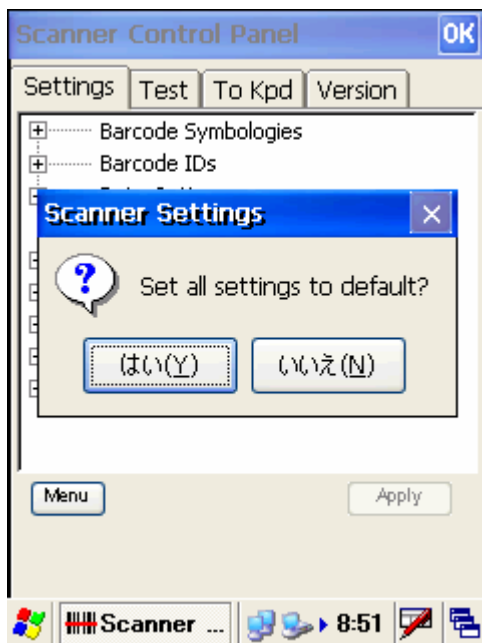
31. “Load Settings From File” または “Load Formulas Only From File” を選択します。すでにあるスキャナ設定/Formula ファイルを読み込みます。(以前に設定/Formula ファイルを保存した場合。)



32. “Save Settings to File” を選択します。現在のスキャナ設定を \*.USI ファイルとして保存します。



33. “Set To Factory Default” を選択します。“Yes” をタップします。スキャナ設定はもとの設定にリセットされます。



## 2.6 Virtual Keys (バーチャルキー)

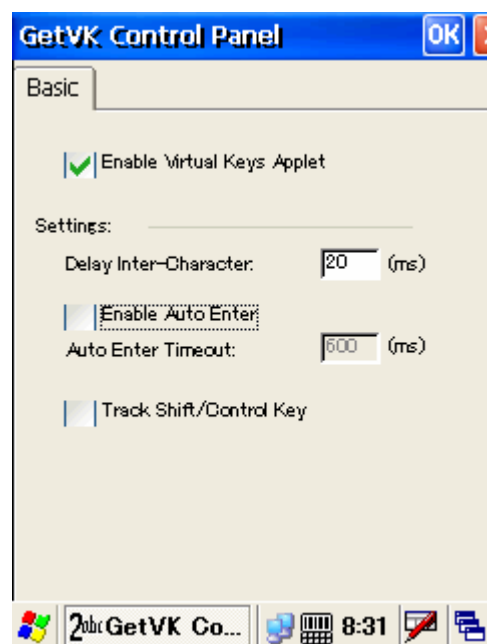
パス: コントロールパネル/Virtual Keys.exe

本ツールはターミナルキーパッドの alpha (英文字) キーの使用を使用可(enable)または使用不可(disable)にし、自動入力をセットします。

1. “Virtual Keys” をタップします。



2. “Enable Virtual Keys Applet” をチェックします。“OK” をタップします。

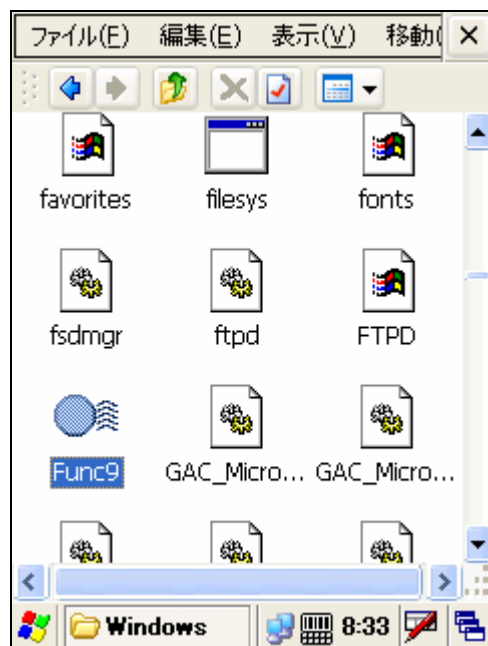


## 2.7 Func 9 (システム情報)

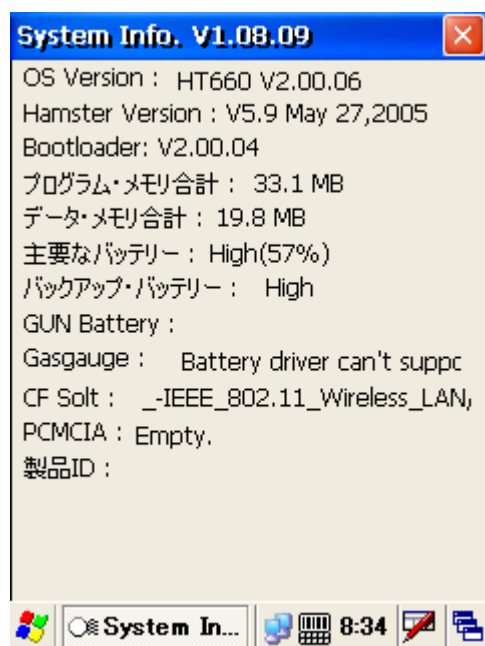
パス: マイコンピュータ/Windows/Func9.exe

このツールはプラットフォーム、ファームウェアバージョン、CF スロットの一般的な情報を表示します。

1. “Func9” をダブルタップします。



2. システム情報が以下のように表示されます。



## 2.8 GetVK

パス: マイコンピュータ/Windows/GetVK.exe

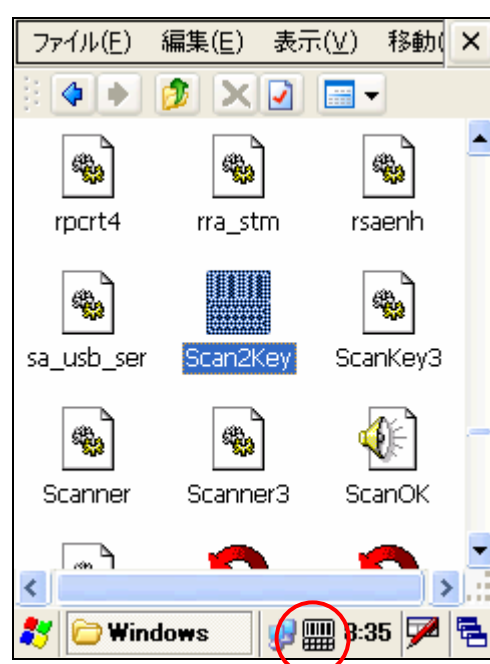
このツールは標準のキーボードイベントを生成するキーボードドライバです。  
ターミナルの電源が入られるたびに自動的に実行されます。

## 2.9 Scan2Key

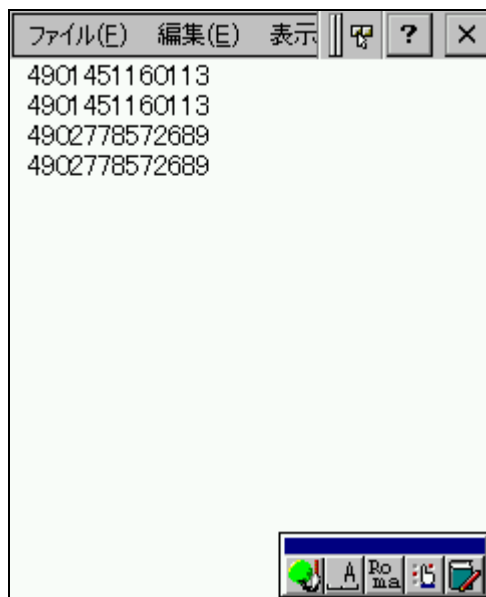
パス: マイコンピュータ/Windows/Scan2Key.exe

Scan2Key アプリケーションは、スキャナポートからの入力をキーボードバッファへ送ることができるので、スキャナからのすべての入力はキーボードからの入力と同じように扱うことができます。これによって、スキャンしたデータはスキャナポートを意識しないアプリケーションに直接入力することができます。

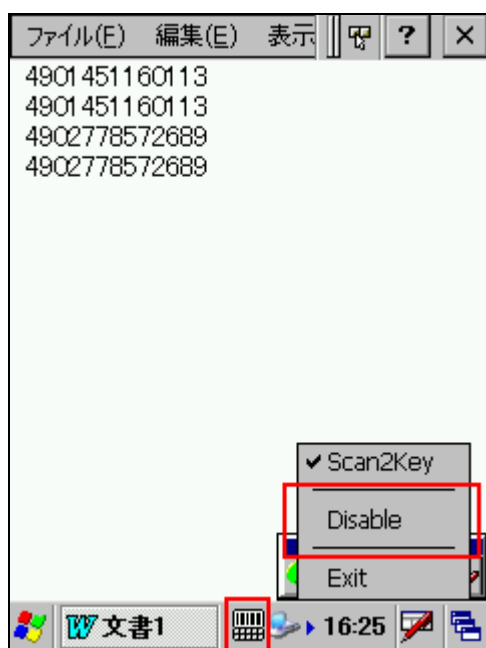
1. “Scan2Key” をダブルタップします。



2. タスクバーに Scan2Key アイコンが見えます。Scan2Key は有効です。
3. アプリケーションプログラムでバーコードをスキャンして下さい。



6. Scan2Key を無効にするには、タスクバーの Scan2Key アイコンに置きます。選択メニューがポップアップします。“Disable” を選択します。



7. Scan2Key を閉じるには、ポップアップメニューで “Exit” を選択します。

## 2.10 UniPing

パス: マイコンピュータ/Windows/UniPing.exe

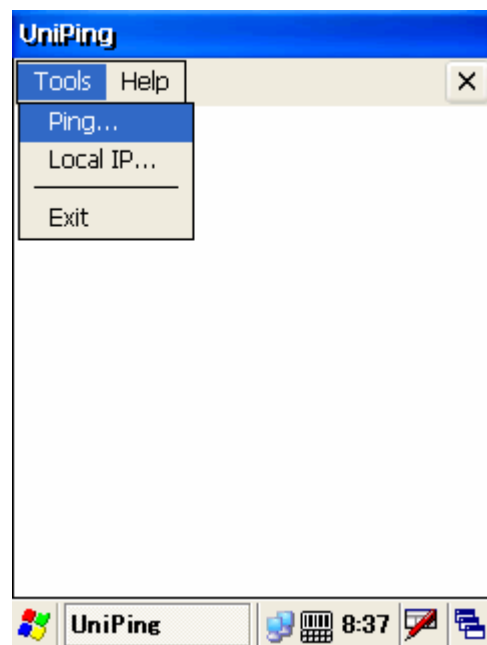
UniPing はターミナル自身の IP アドレスのトレースと LAN 上の他のコンピュ



ータに Ping を実行することができます。

注意: ターミナルが LAN に接続されていることをご確認ください。

1. “UniPing” をダブルタップします。
2. “Tools” メニューの下で、“Ping” を選択します。

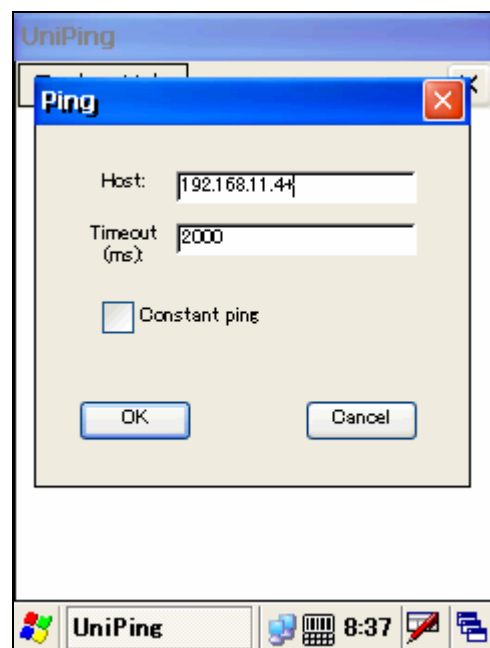


3. “Host” フィールドで、ターミナルが Ping を実行したいホストの IP アドレスをキー入力します。

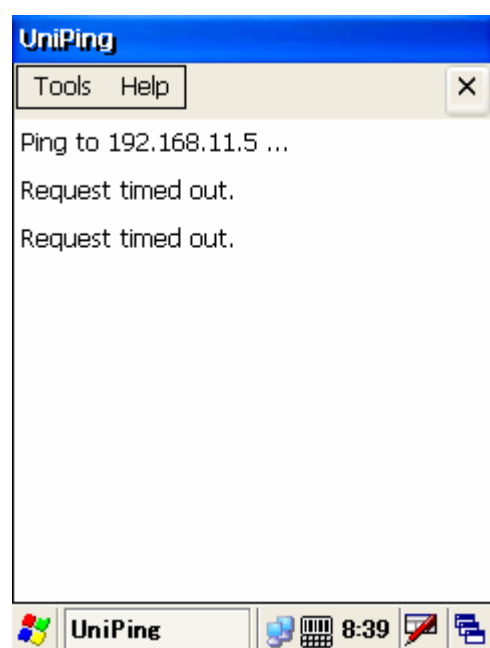
タイムアウトについては、2000ms のままにするか、あるいはタイムアウトを入力します。

“Constant Ping” をチェックし、間隔(Interval)をセットします。そうするとターミナルはリモートコンピュータに一定の間隔で Ping を実行します。

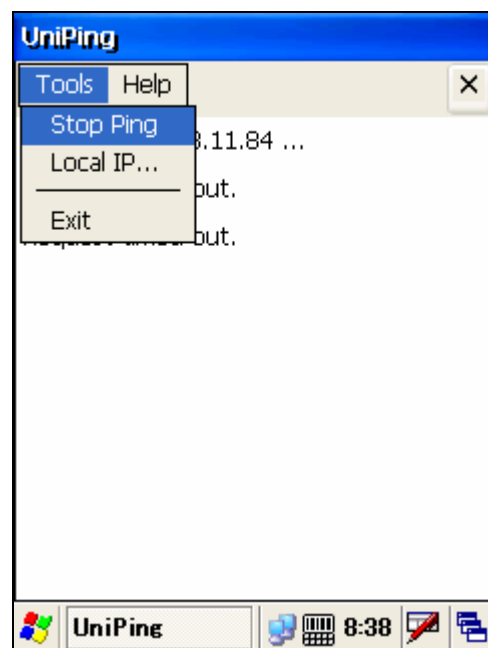
OK をタップします。



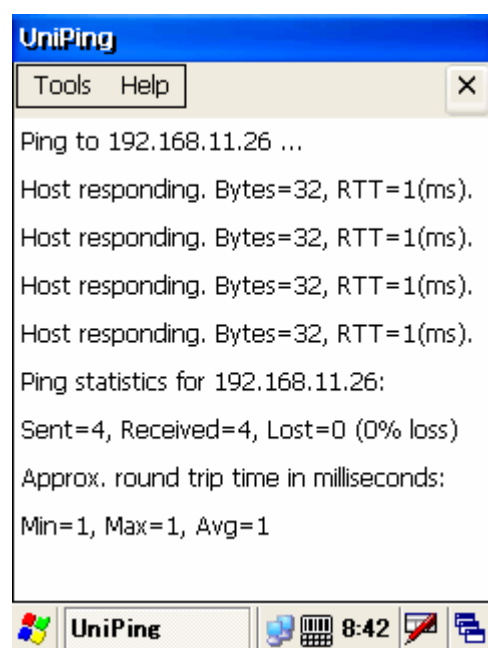
4. ターミナルは入力した IP アドレスを持つリモートコンピュータを探しません。見つからなければ、以下のメッセージが表示されます。



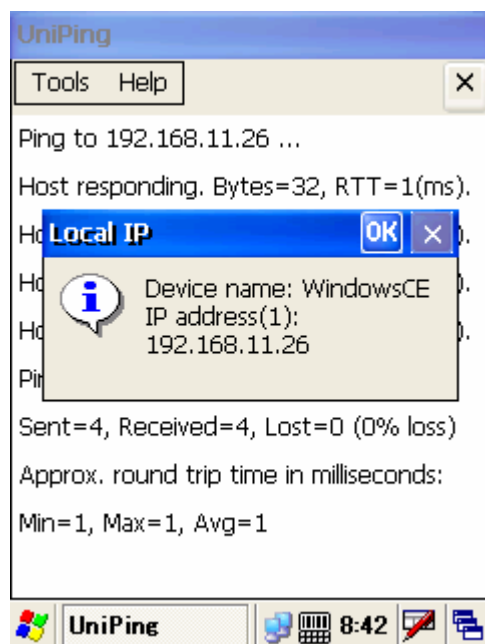
5. リモートコンピュータへの Ping を停止するには “Tools/Stop Ping” を選択します。



6. リモートコンピュータが見つかったら、以下が表示されます。



7. “Tools/Local IP” を選択します。ターミナルの IP アドレスが表示されます。

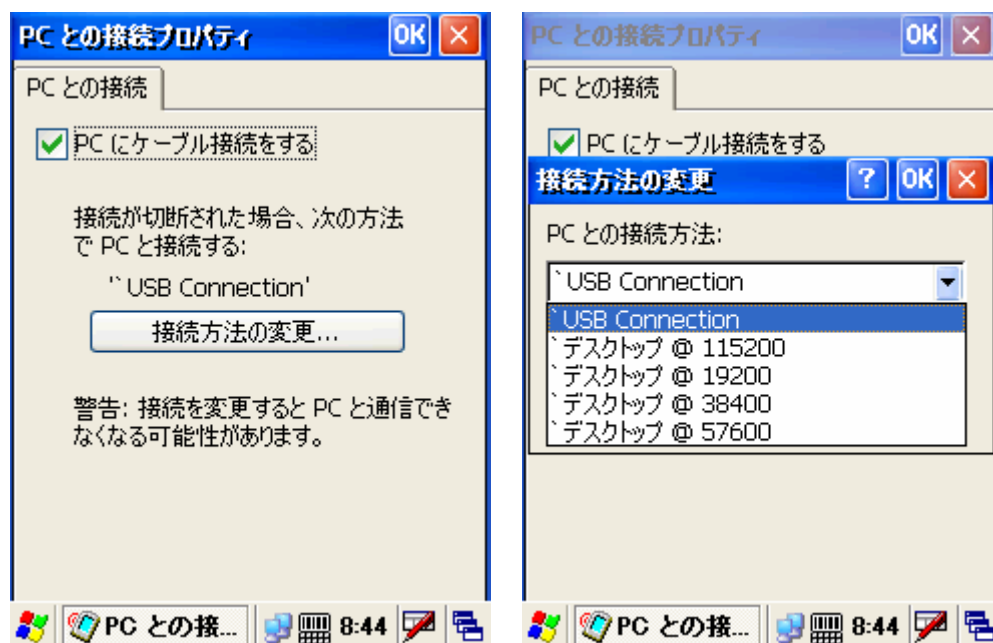


## 2.11 PCLink

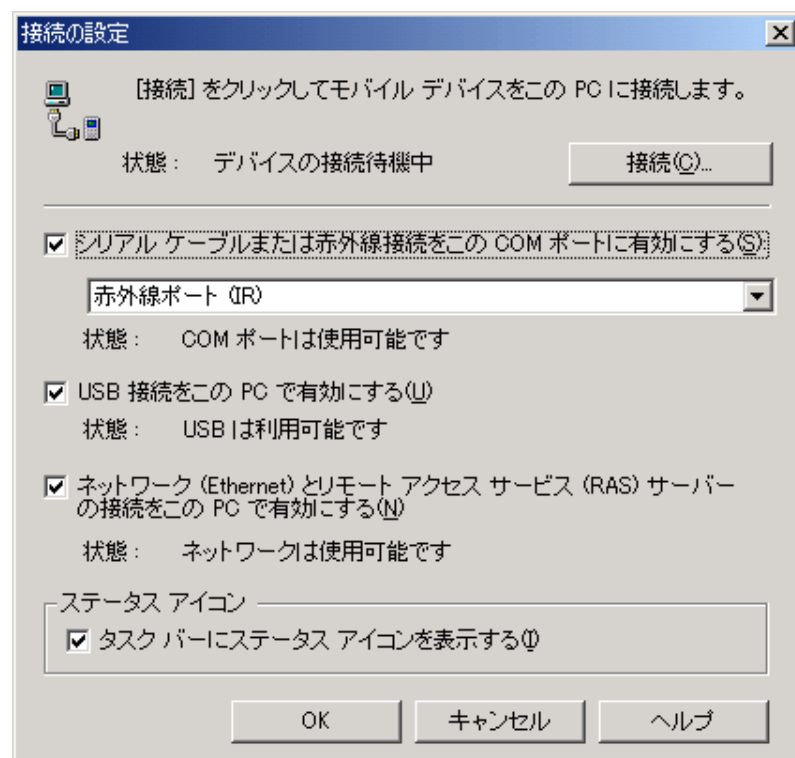
パス: /スタート/プログラム/通信/PCLink.exe

PCLink は PC との RS232/USB 通信を使用可能にするツールです。

1. コントロールパネルで、“PC との接続” をタップします。“接続方法の変更”をタップします。“Desktop@baud rate” を選択します。OK をタップします。



2. ターミナルとホストを RS232 ケーブルで接続します。
3. ホストで、Activesync を実行します。“File” の下で、“接続の設定”を選択します。“シリアル接続または赤外線接続をこの COM ポートに有効にする”をチェックします。COM ポートを選択します。“Ok” をクリックします。



4. 実行するために“PCLink”をダブルタップします。ターミナルとホストは RS232 で接続されます。

## 第3章 “Windows” の下のツールと アプリケーション

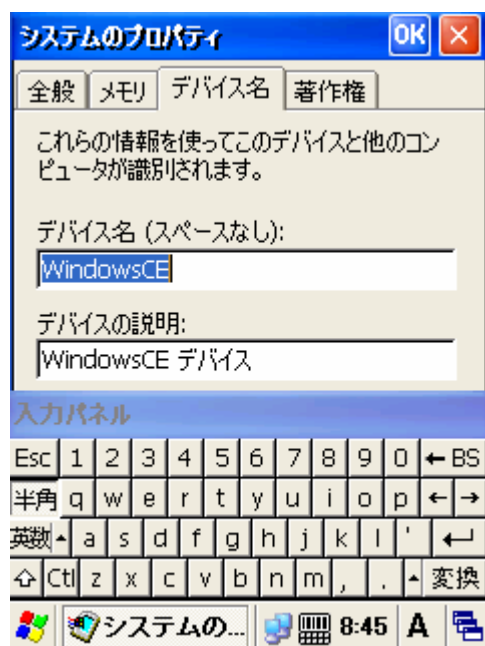
1. ActiveNet
2. Calibration(キャリブレーション)
3. Net
4. Screen Rotation
5. Taskman
6. visadm
7. wceload

### 3.1 ActiveNet

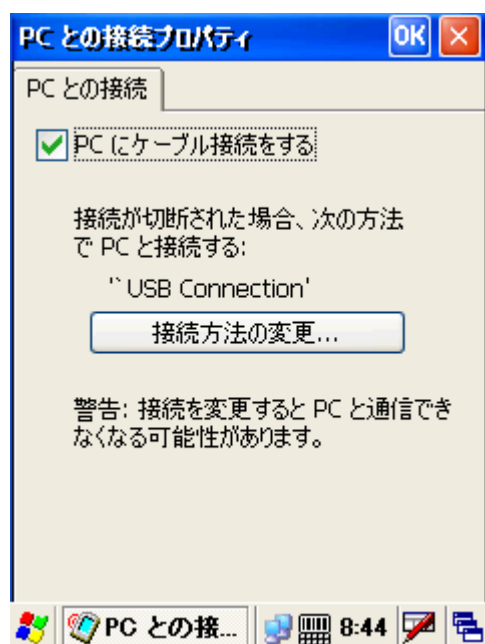
パス: マイコンピュータ/Windows/ActiveNet.exe

本ツールは無線ネットワーク通信を使用してターミナルとホスト(PC/ノートPC)間でファイルの同期をとる機能を提供します。

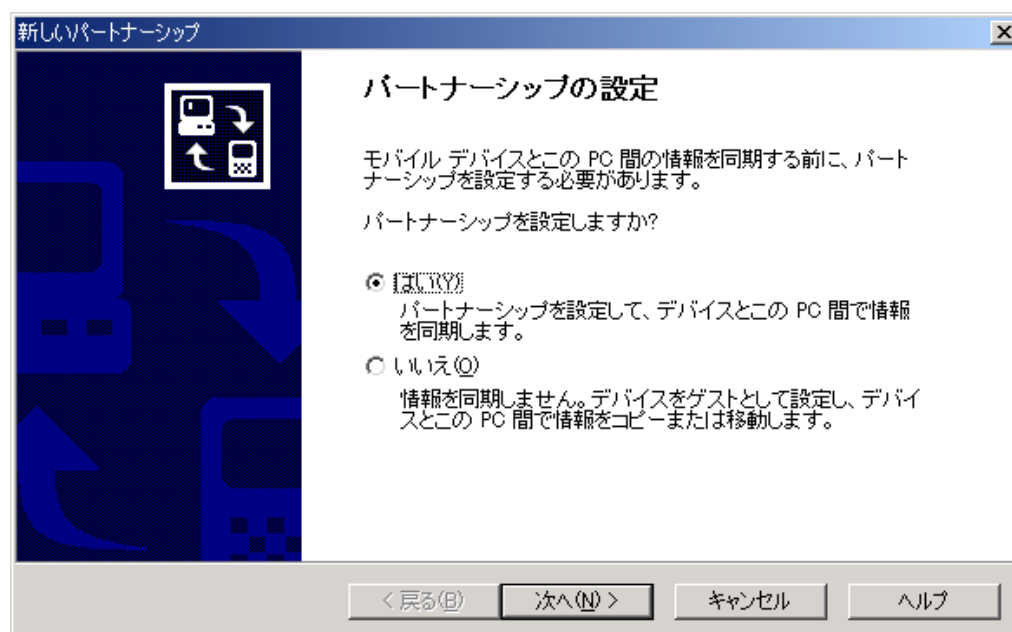
1. “コントロールパネル”>“システム”> デバイス名の下で、デバイスの名前をタイプします。



2. コントロールパネルで“PC との接続”をタップします。“接続方法の変更”をタップします。“USB Connection”を選択します。

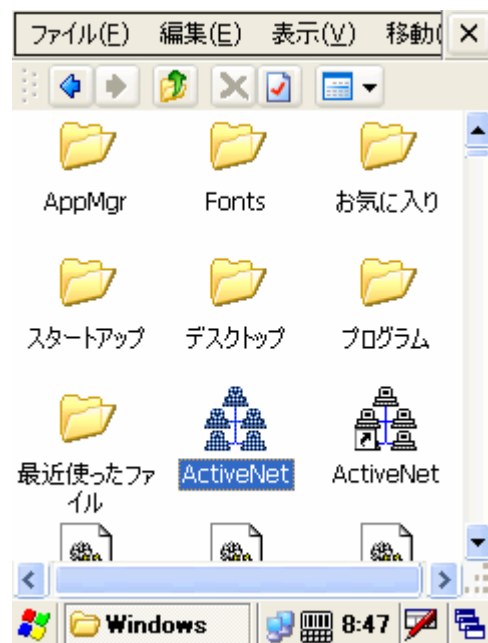


3. ターミナルと PC を、USB 通信ケーブルを使用して接続します。
4. ホストで Microsoft Activesync を実行し、接続設定を行い、接続します。
5. 接続後に、“パートナーシップを設定しますか?” の質問に“はい”を選択します。“次へ”をクリックします。



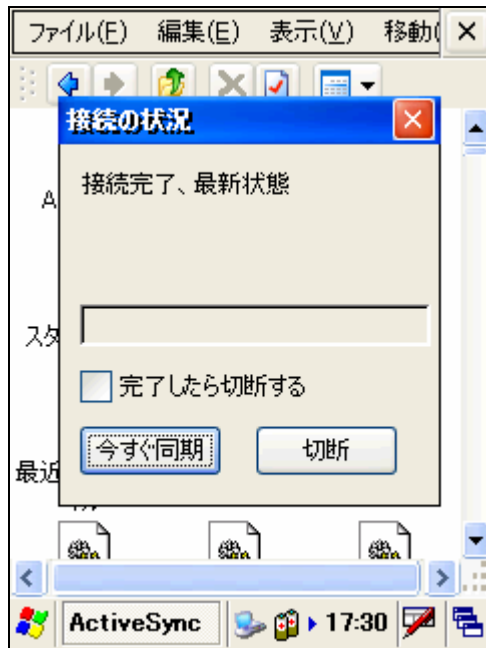
6. デバイスの名前を与えます。“次へ”をクリックします。

7. 同期設定を選択します。“ファイル” をチェックします。“次へ” をクリックします。セットアップが終了しました。
8. 設定と無線 LAN カードの WEP 入力を行います。
9. USB 通信ケーブルを外します。
10. “Windows” の下で、“ActiveNet” をダブルタップします。



11. 選択した PC に接続する方法を選びます。“ネットワーク接続” を選択します。 <接続先> に接続します。“接続” をタップします。
12. Activenet は無線ネットワークを通してターミナルを PC 上の Activesync に接続し、ファイルの同期を行います。
13. 再度同期を行うには、“今すぐ同期” をタップします。





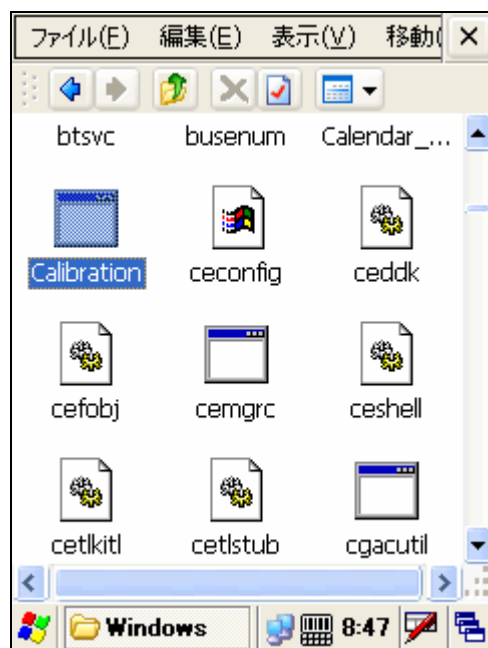
15. 通信の切断を行うには“切断”をタップします。

### 3.2 Calibration(キャリブレーション)

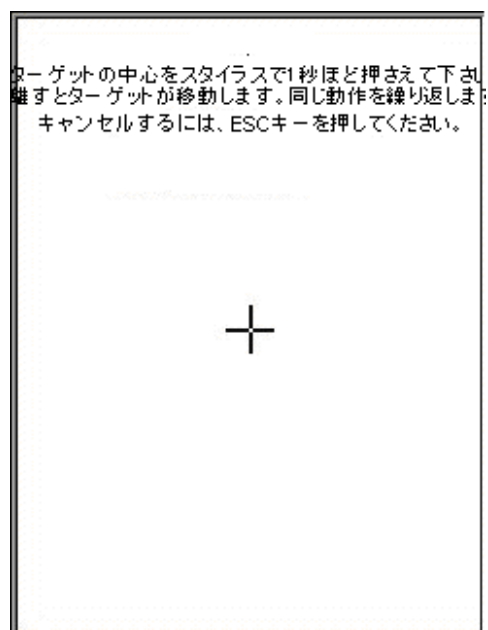
パス: マイコンピュータ/Windows/Calibration.exe

本ツールは最初のタッチパネルの位置が正確ではなくなったときに補正を行うことができます。

1. “Calibration” をダブルタップします。



2. “+” を押すためにスタイラスを使用します。(中央、左上、左下、右下、右上) を押して、“Enter” キーを押します。



### 3.3 Net

パス: マイコンピュータ/Windows/Net.exe

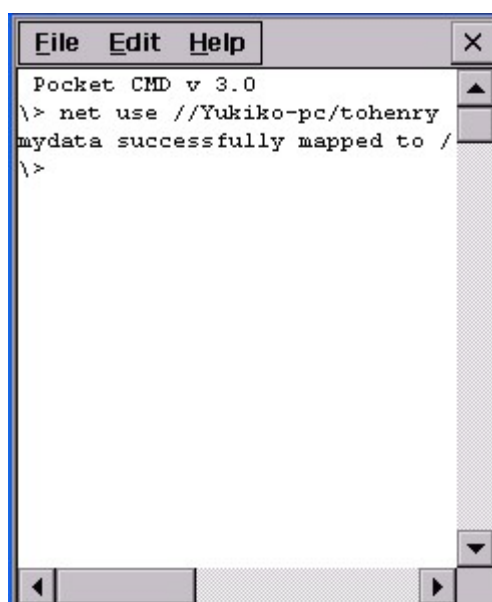
これは MS-DOS コマンドで、ネットワーク上の任意のコンピュータとデータ/ファイルを共有することができます。(ターミナルはネットワークに接続しな

ければなりません。)

1. PC でネットワークにフォルダを共有にします。
2. MS-DOS プロンプトを実行します。
3. MS-DOS プロンプトで、以下のコマンドをタイプします：

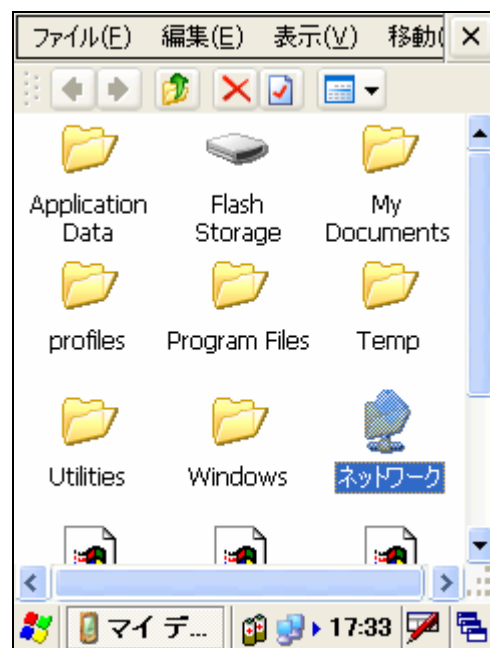
Net Use //<PC 名>/<共有フォルダ名> <ターミナルのフォルダ名>

ターミナルのフォルダ名については、好きな名前を付けることができます。



```
File Edit Help X
Pocket CMD v 3.0
\> net use //Yukiko-pc/tohenry
mydata successfully mapped to /
\>
```

4. “マイコンピュータ”で、“Network” をタップします。ターミナルのフォルダが見えます。



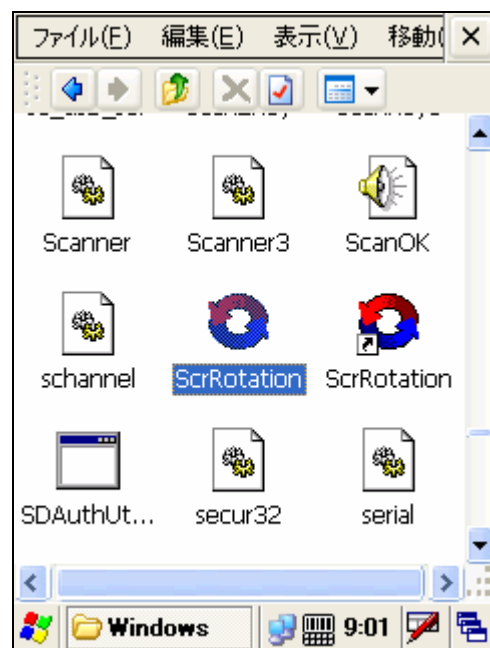
5. フォルダを開きます。フォルダにファイルが見えます。内容は PC の共有フォルダと同じです。

### 3.15 スクリーンの回転

パス: /マイコンピュータ/Windows/ScrRotation.exe

スクリーンの回転は、ターミナルのスクリーンを右または左へ回転、もしくは上下反転をすることができます。

1. “ScrRotation.exe” をダブルタップします。



2. スクリーン回転アイコンがタスクバーに現れます。メニューからオプションを選択するためにアイコンをタップします。



3. “ Rotate Right ” をタップします。スクリーンは右へ回転します。
4. “ Rotate Left ” をタップします。スクリーンは左へ回転します。
5. “ Upside Down ” をタップします。スクリーンは 180° 反転します。
6. “ About ” をタップします。スクリーン回転のバージョンが表示されます。

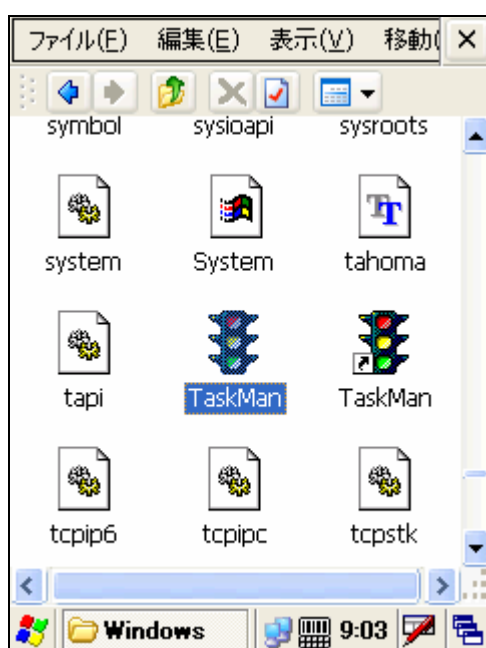
7. “Exit” をタップします。スクリーン回転のアイコンが消えます。

### 3.16 Taskman(タスクマネージャ)

パス: マイコンピュータ/Windows/TASKMAN.exe

本ツールは現在実行しているタスクを表示します。

ステップ 1. “TASKMAN” をダブルタップします。



2. アクティブなタスクが表示されます。終了したいタスクを選択して “End Task” をタップします。



### 3.6 wceload

パス: マイコンピュータ/Windows/wceload.exe

本ツールは \*.cab ファイルを実行するためにあります。

## 第 4 章 コントロールパネル

### “コントロールパネル” の下の設定

1. Backlight(バックライト)
2. CPU Speed(スピード)
3. 日付/時刻
4. 画面
5. 入力パネル
6. インターネットオプション
7. キーボード
8. ネットワークとダイアルアップ接続
9. 所有者情報
10. パスワード
11. PC 接続
12. パワーマネージメント
13. 地域
14. アプリケーションの削除
15. 記憶域マネージャ
16. スタイラス
17. システム
18. ボリューム & サウンド



## 4.1 Backlight(バックライト)

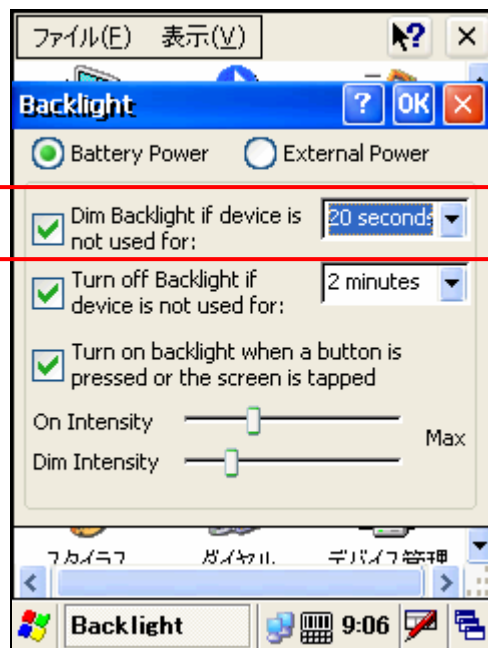
パス:/スタート/設定/コントロールパネル/Backlight

このツールは消費電力を抑えるためにバックライトをオフにする時間を設定することができます。

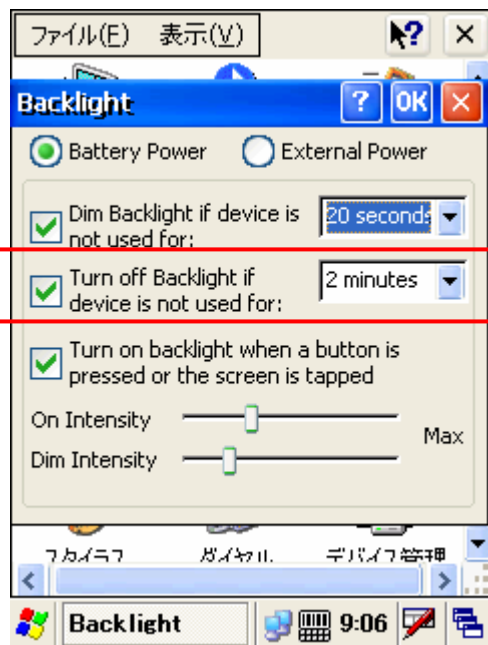
1. “Backlight” をタップします。



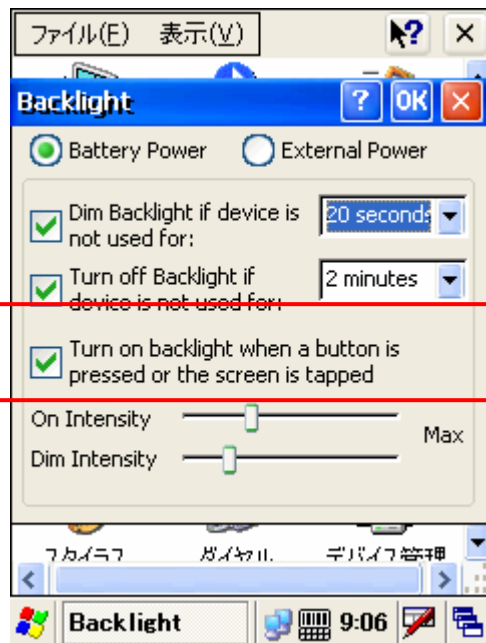
2. ターミナルが電源アダプタを使用していない場合、“Battery Power” を選択します。“Dim backlight if device is not used for” をチェックしてドロップダウンメニューから選択することによって時間を決めます。ターミナルのバックライトはアイドルに鳴った後で、ここで決めた時間の後で暗くなります。ボタンをドラッグすることによって暗さを決めることができます。



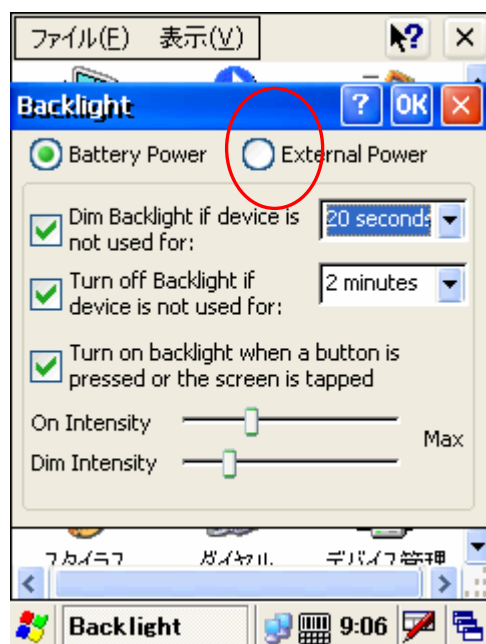
3. “Turn off backlight if device is not used for” をチェックし、ドロップダウンメニューから選択することによって時間を決めます。ターミナルのバックライトはアイドルになった後ここで決めた時間の後オフになります。ボタンをドラッグすることによってオンの明るさを決めることができます。



4. “Turn on backlight when a button is pressed or screen is tapped” をチェックします。OK をタップします。バックライトがオフになったら、LCD スクリーンをタップするか、何かのキーを押してバックライトを点灯します。



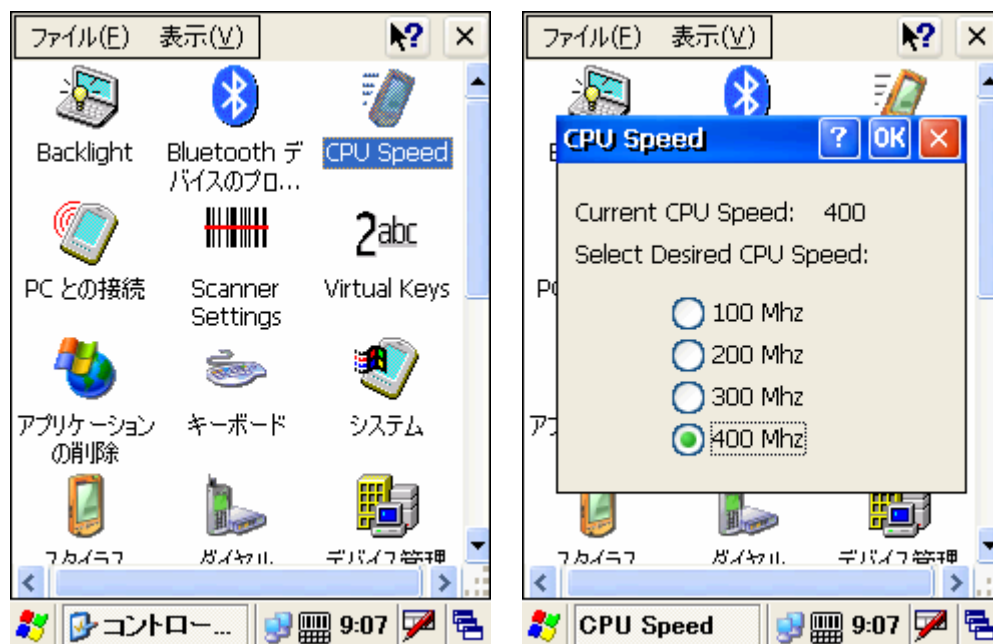
5. 電源アダプタを付けます。External Power を選択します。2 から 4 を繰り返します。バックライトはターミナルが電源アダプタを使用している間はここで設定した時間で暗くなるかオフになります。



## 4.2 CPU Speed(スピード)

パス:/ スタート/設定/コントロールパネル/CPU Speed

1. CPU speed をタップします。希望する CPU 速度を選択します。



### 4.3 日付/時刻

パス: スタート/設定/コントロールパネル/ 日付 / 時刻

システムの日付と時刻を設定します。

1. 日付/時刻をダブルタップします。



2. カレンダーから日付を選択し、時刻をセットします。時差も選択することができます。そして、“適用” をタップします。

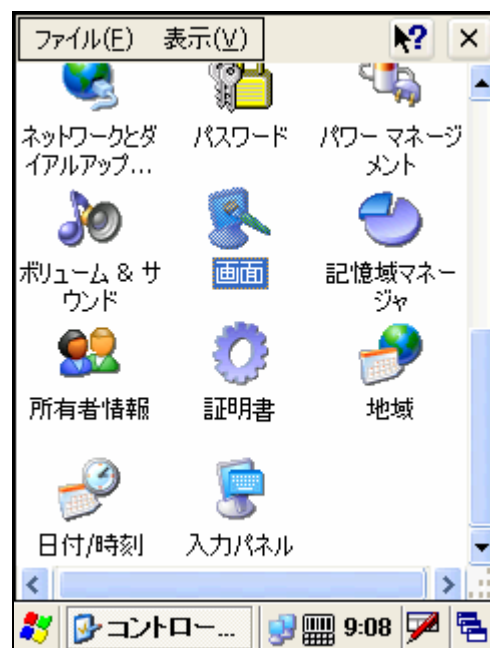


#### 4.4 画面

パス：スタート/設定/コントロールパネル/画面

この設定は、Windows の背景のスタイル、Windows の色とパターン、そしてバックライトをオフにする時間をセットすることができます。

1. “画面” をダブルタップします。



2. “背景” タブの下で、“模様” について、ドロップダウンリストから背景の名前を選択します。背景をビットマップファイルからさがすために“参照” をタップすることができます。“OK” をタップします。



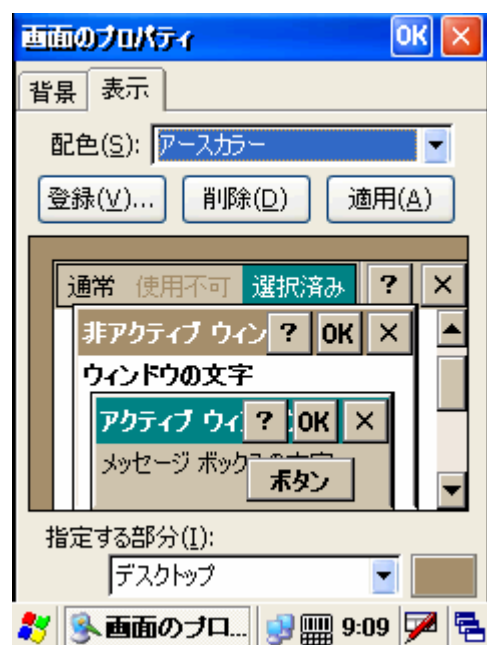
3. “表示” の下で、“配色” について、ドロップダウンリストから配色を選択します。

4. “指定する部分” について、配色を適用したい項目を選択します。

5. “適用” をタップします。

6. 登録” ボタンをタップすることによって配色に名前を付けることができます。

7. 配色を削除するには “削除” をタップします。

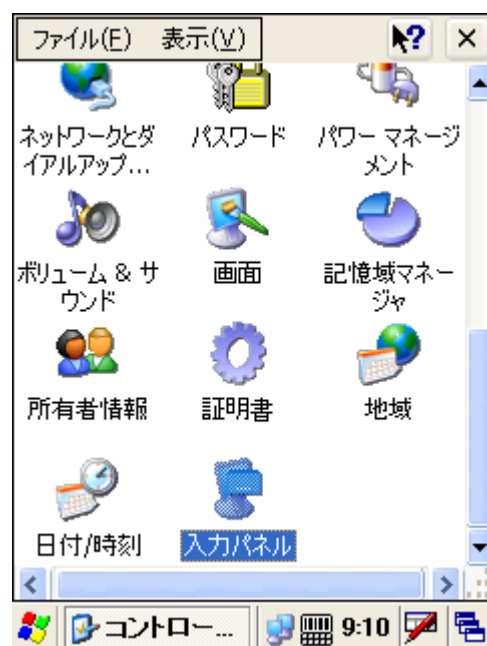


## 4.5 入力パネル

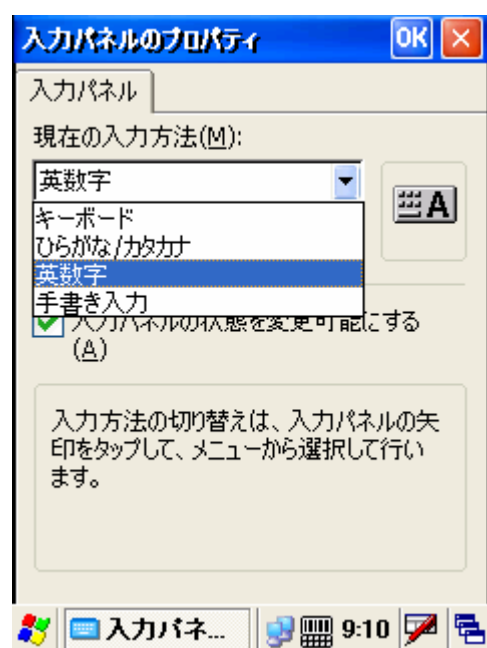
パス： スタート/設定/コントロールパネル/入力パネル

この設定は、ソフトウェアキーボードの入力方法とキーボードスタイルを指定します。

1. “入力パネル” をダブルタップします。



2. “現在の入力方法” で、希望する入力方法を選択します。“OK” をタップします。



3. 例えば “小さいキー” を選択します。“OK”、“OK” をタップします。





4. ジェスチャを使用できるので、メインキーとスペース、Back Space、Enter、そして Shift キーを表すためにソフトウェアキーをスタylasでスライドして使用することができます。“ジェスチャを使用: Shift, Space, Backspace, Enter” をチェックします。“OK”、“OK” をタップします。

## 4.7 キーボード

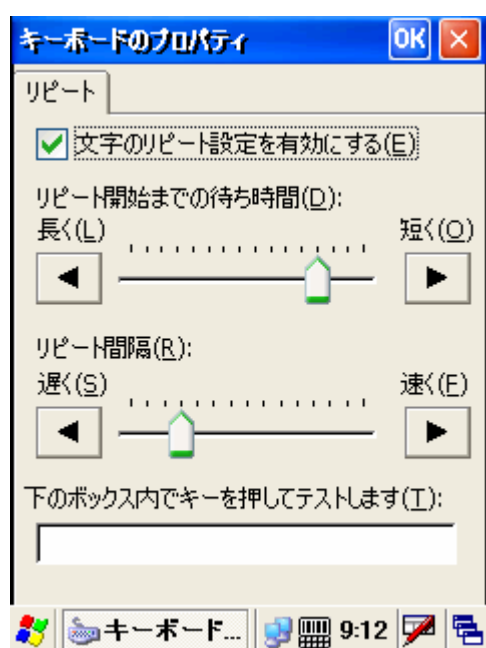
パス: スタート/設定/コントロールパネル/キーボード

本設定はターミナルのキーパッドの動作を指定することができます。(ハードウェアキーパッド)

1. “キーボード” をダブルタップします。



2. “文字のリpeat設定を有効にする” をチェックします。
3. リpeat開始までの待ち時間とリpeat間隔を調整します。
4. カーソルを “下のボックス内で、キーを押してテストします” のフィールドにおきます。
5. キーパッドのキーを押したままにします。
6. キーを離すまで繰り返し文字が見えます。



## 4.8 ネットワークとダイヤルアップ接続

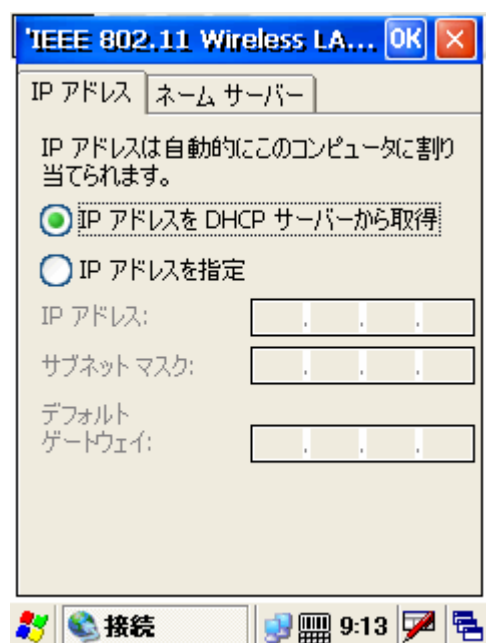
パス：スタート/設定/コントロールパネル/ネットワークとダイヤルアップ接続

本設定はネットワーク設定とダイヤルアップ接続の設定を行います。

1. “ ネットワークとダイヤルアップ接続 ” をダブルタップします。



2. PRISM について、IPアドレスとDNSサーバを指定するためにタップします。



## 4.9 所有者情報

パス: /スタート/設定/コントロールパネル/所有者情報

本設定は本ターミナルの所有者を定義し、ネットワーク ID 等をセットします。

1. “所有者情報” をダブルタップします。



2. 所有者、勤務先、住所を入力します。“所有者情報を表示する” をチェックします。“OK” をタップします。システムはサスペンド後に所有者情報を表示します。

所有者情報のプロパティ

所有者情報 メモ ネットワーク ID

名前:  
勤務先:  
住所:

入力パネル

Esc 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 ← BS  
半角 q w e r t y u i o p ← →  
英数 a s d f g h j k l ' ←  
⇧ Ctl z x c v b n m , . ⇩ 変換

所有者情... 9:13 A

3. “メモ” の下で、メッセージを入力して“メモを表示する” をチェックします。“OK” をタップします。システムはサスペンド後にメモを表示します。

所有者情報のプロパティ

所有者情報 メモ ネットワーク ID

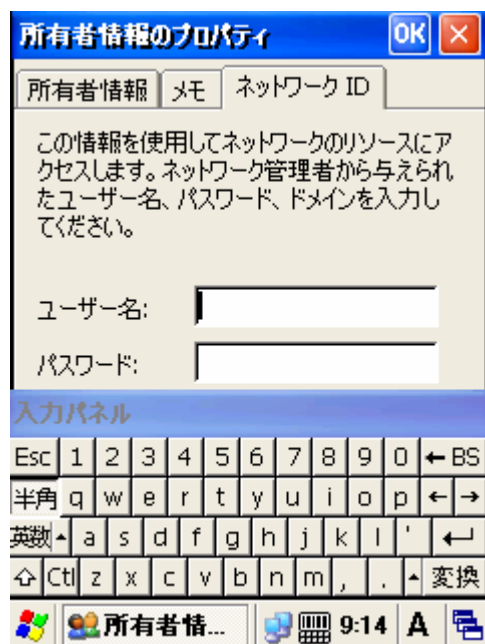
メモ:  
システム起動時  
 メモを表示する

入力パネル

Esc 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 ← BS  
半角 q w e r t y u i o p ← →  
英数 a s d f g h j k l ' ←  
⇧ Ctl z x c v b n m , . ⇩ 変換

所有者情... 9:14 A

4. “ネットワーク ID” の下で、ネットワークへのアクセスを可能とするユーザ名とパスワードを指定します。

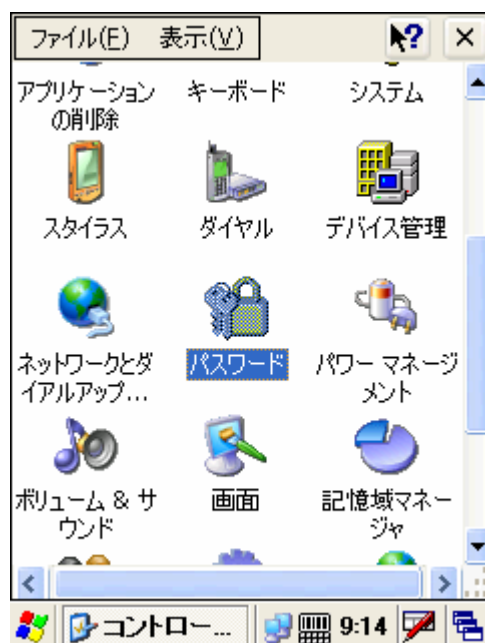


## 4.10 パスワード

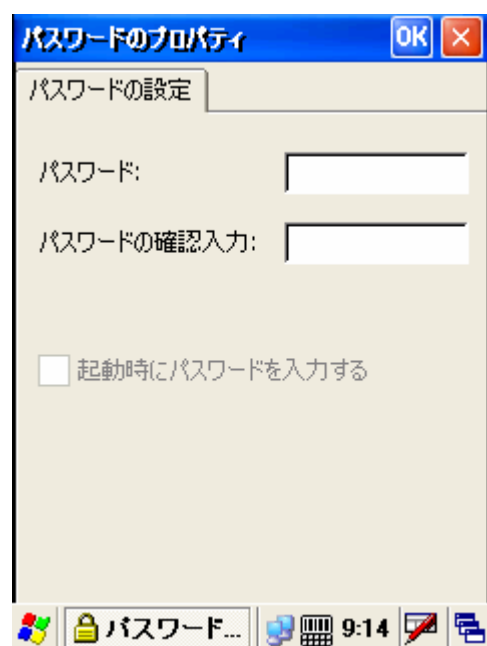
パス: スタート/設定/コントロールパネル/パスワード

本設定はユニークなパスワードを設定することによって Windows に他のユーザがアクセスすることを防止します。

1. “パスワード” をダブルタップします。



2. パスワードを二回入力します。“起動時にパスワードを入力する”をチェックします。



3. ターミナルをウォームスタートします。ログインするためにパスワードを入力します。

#### 4.11 PC との接続

パス: /スタート/設定/コントロールパネル/PC との接続

この設定は、デバイス名をセットし、そしてホストと通信するデバイスにセットしたい通信のタイプを指定します。

1. “PC との接続” をダブルタップします。

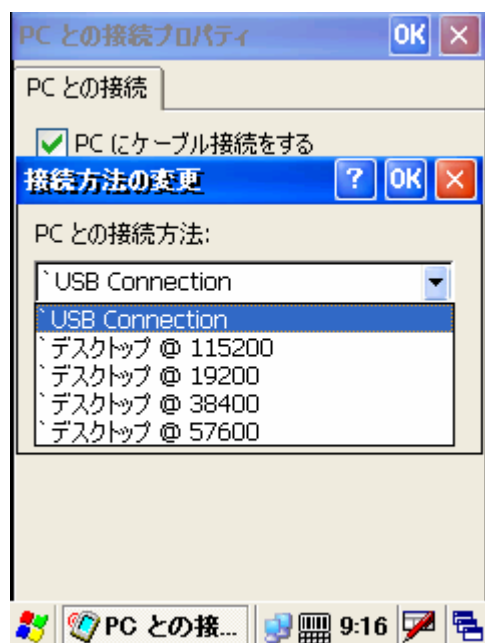


2. “ PC にケーブル接続する ” をチェックします。“ 接続方法の変更 ” をタップします。ターミナルをホストに接続する通信のタイプを選択します。

例:

RS232 : ケーブルを使用する場合、“ Desktop@115200 ” または “ Desktop@57600 ” を選択します。

USB ケーブルを使用する場合、“ USB Connection ” を選択します。





## 4.11 パワーマネージメント

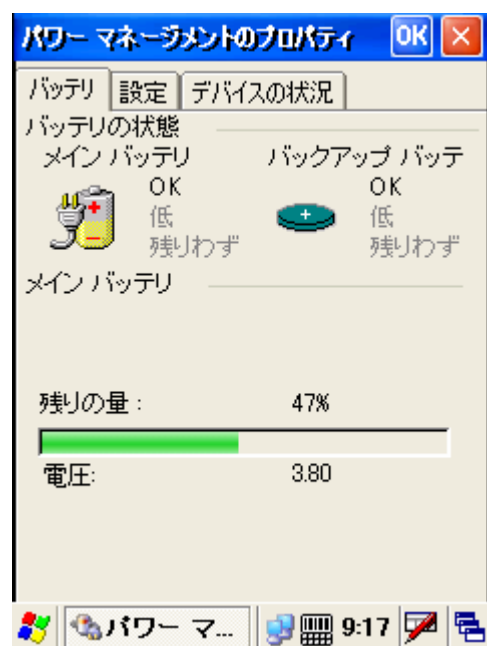
パス: /スタート/設定/コントロールパネル/パワーマネージメント

本設定はバッテリーの電源電圧を示します、またバッテリー電源を節約するために指定した時間後にターミナルの電源を切ることができます。

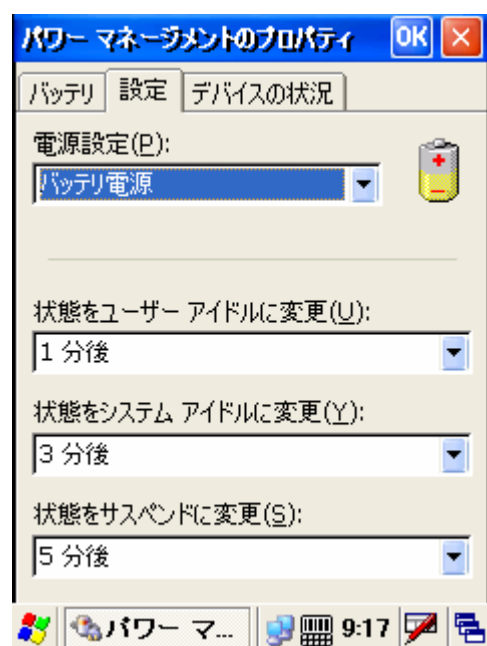
1. “パワーマネージメント” をダブルタップします。



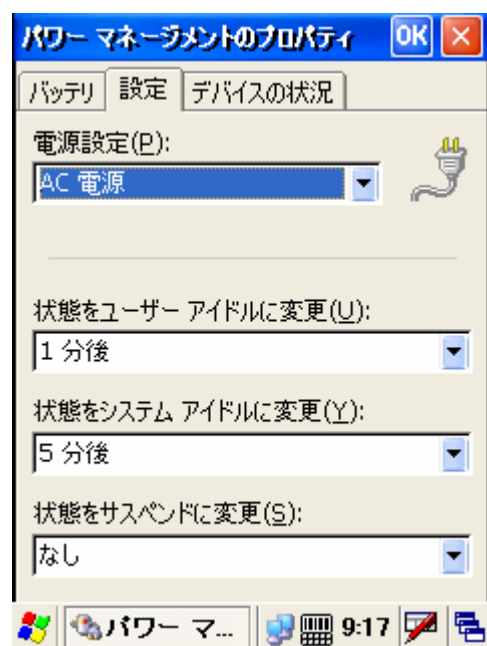
2. “バッテリー” タブの下で、スクリーンはメインバッテリーとバックアップバッテリーの状態を示します。



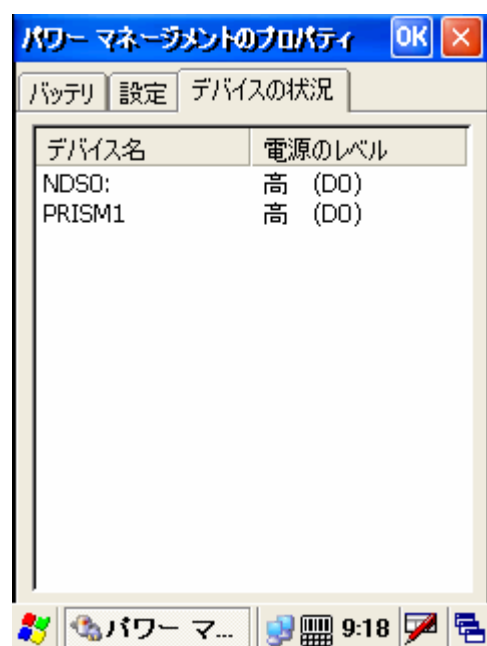
3. “設定”の下で、電源設定について“バッテリー電源”を選択します。そして、ユーザ、システムについてのアイドル時間とサスペンドにする時間を設定します。



4. 電源設定を“AC 電源”に設定します。ユーザ、システムのアイドル時間とサスペンドにする時間を設定します。



5. “ デバイスの状況 ” をタップすると、電源レベルが表示されます。



#### 4.13 地域

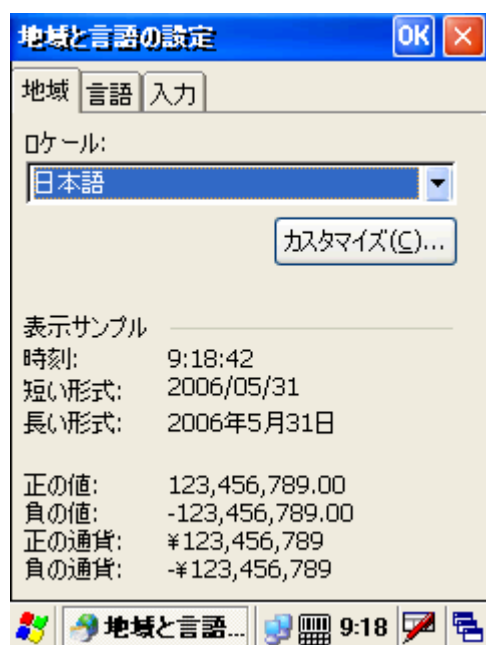
パス: スタート/設定/コントロールパネル/地域

本設定は地域設定、通貨、日付フォーマット等を設定します。

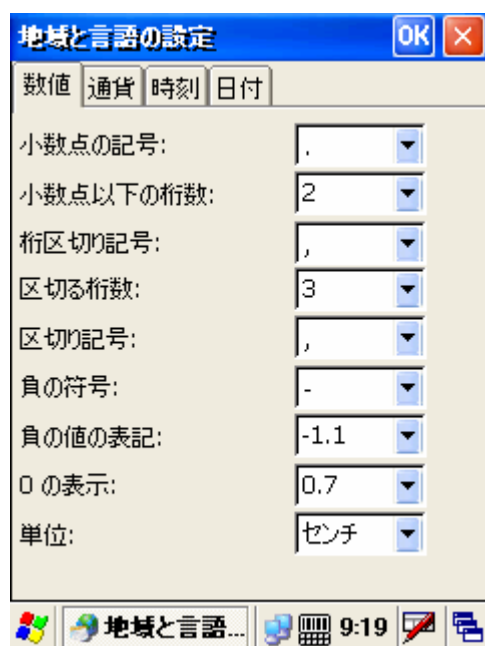
1. “地域” をダブルタップします。



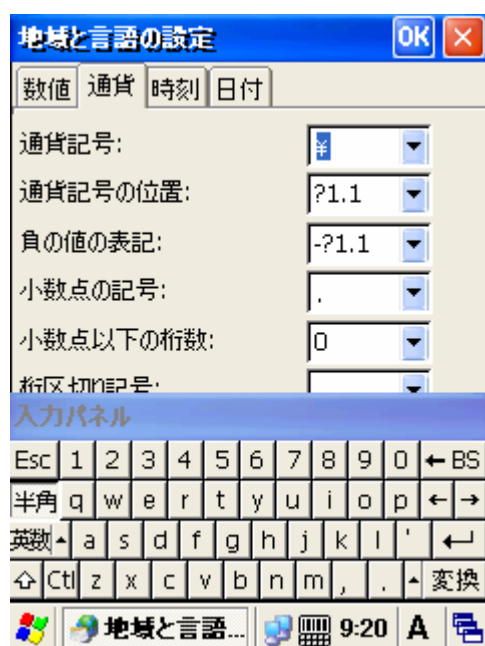
2. “地域” タブで、使用したい地域を選択します。



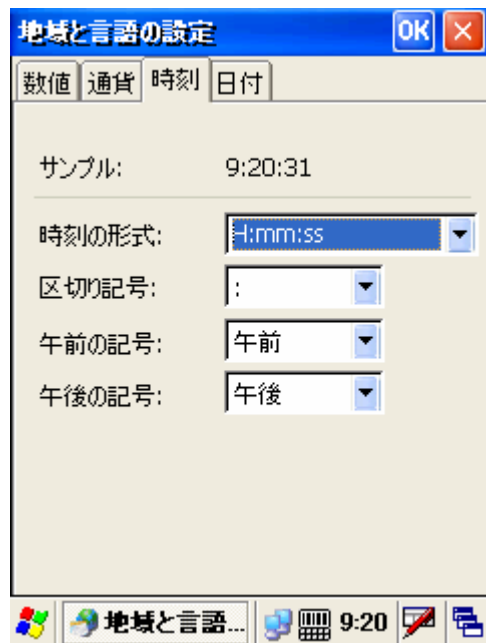
3. “カスタマイズ” ボタンを押して、“数値” タブで使用したい記号とフォーマットを選択します。



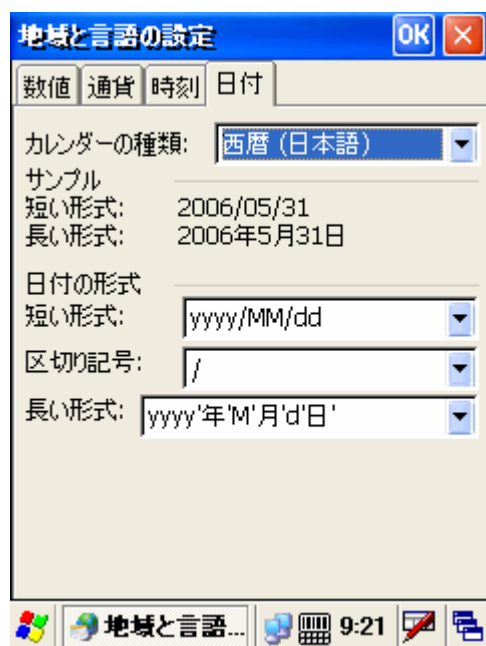
4. “通貨” タブで、使用したい記号とフォーマットを選択します。



5. “時刻” タブで、時刻のフォーマットを選択します。



6. “日付” タブで、日付のフォーマットを選択します。



#### 4.14 アプリケーションの削除

パス: /スタート/設定/コントロールパネル/アプリケーションの削除

この設定は不要なプログラムを削除することができます。

1. “アプリケーションの削除” をダブルタップします。



2. 削除したいプログラムを選択します。“削除” をタップします。



## 4.15 記憶域マネージャ

パス: スタート/設定/コントロールパネル/記憶域マネージャ

記憶域マネージャはCFメモリの情報チェックとフォーマット、非マウントまたはCFカードに新しいパーティション作成を行うことができます。

1. CF カードをターミナルに挿入します。
2. “記憶域マネージャ” をダブルタップします。



3. 表示したいディスクを選択します。容量とセクタサイズが表示されます。





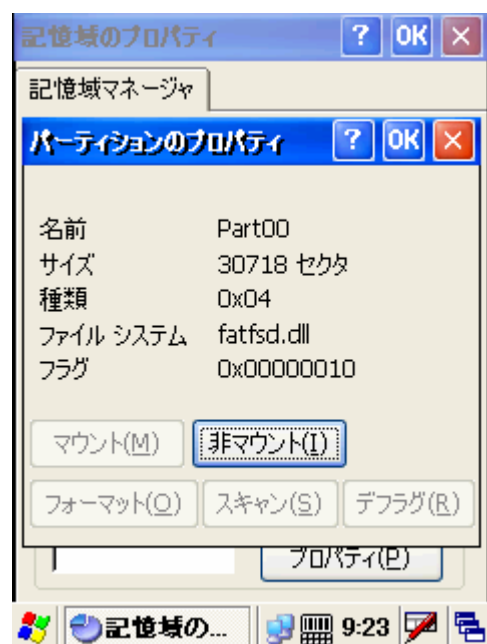
4. SD カードをフォーマットしたい場合は “フォーマット” をタップします。データの消去を確認するために “はい” をタップします。



5. ディスクのマウントを外すには “非マウント” をタップします。
6. 新しいパーティションを作るには、 “作成” をタップし、パーティションの名前をタイプします。



7. パーティションを選択して “プロパティ” をタイプします。



8. パーティションをマウントするには “マウント” をタップします。あるいはパーティションのマウントをやめるために “非マウント” をタップします。

9. このパーティションをフォーマットするために “フォーマット” をタップします。

10. このパーティションをスキャンするために “スキャン” をタップします。 “スタート” をタップします。終了したら “OK” をタップします。

11. このパーティションのデフラグを行うために “デフラグ” をタップします。 “スタート” をタップします。

12. 削除したいパーティションを選択します。 “削除” をタップします。 “はい” をタップします。(注: 削除する前にパーティションを “非マウント” しなければなりません。)

## 4.16 スタイラス

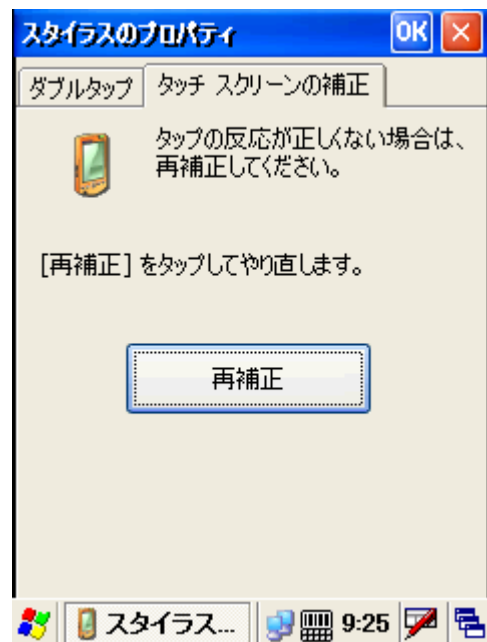
パス: スタート/設定/コントロールパネル/スタイラス

この設定はタップする感度を調整し、タッチスクリーンの補正をすることができます。

1. “スタイラス” をダブルタップします。



2. “タッチスクリーンの補正” の下で、“再補正” をタップします。スタイラスを使用してスクリーンを補正します。(3.3 章をご覧ください。)



## 4.17 システム

パス : スタート/設定/コントロールパネル/システム

本設定はシステムの一般設定を表示し、データ記憶用メモリとプログラム実行用メモリの容量を調整することができます。

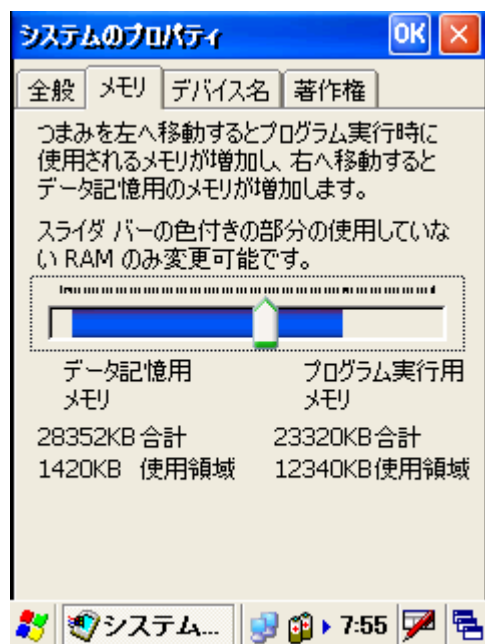
1. “システム” をダブルタップします。



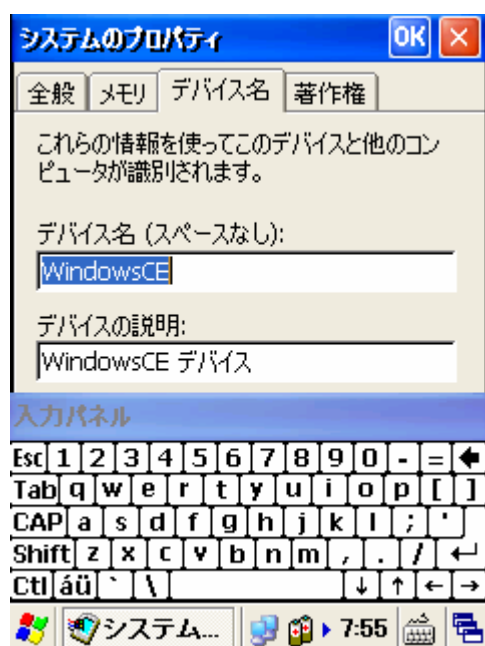
2. システムはWindows CEのバージョンとターミナルのハードウェア情報を示します。



3. “メモリ” タブの下で、スライダを使用してメモリのサイズを調整します。



4. “デバイス名” の下で、デバイスの名前を指定します。



## 4.18 ボリューム & サウンド

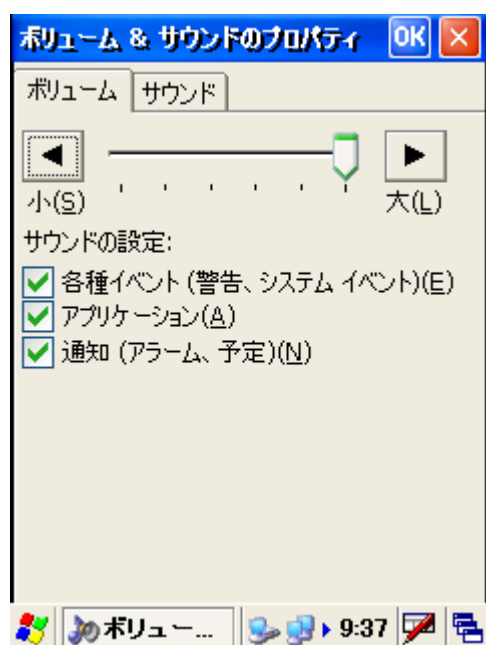
パス: スタート/設定/コントロールパネル/ボリューム & サウンド

本設定はタップ、キークリック、イベント、注意等の音量を調整します。また、特別なイベントの音の種類を指定して音色を設定します。

1. “ボリューム & サウンド” をダブルタップします。

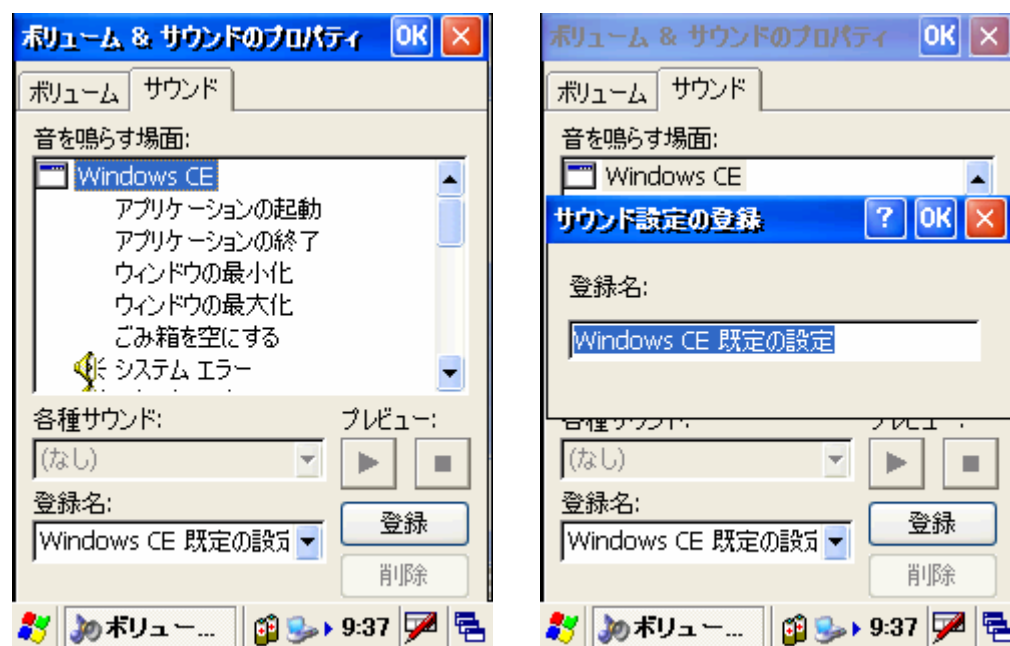


2. ボリュームを調整し、サウンドに適用したいオプションをチェックします。



3. 新しい設定を作るには “登録” をタップします。

4. 設定の名前を入力します。



5. “音を鳴らす場面”の下で、場面をクリックします。サウンドを選択します。サウンドを聴くにはプレビューをタップします。
6. 登録から場面を削除するには、“削除”をタップします。
7. 新しく変更を行ったときに“登録”をタップして上書きします。
8. 新しいサウンドを登録しました。何時でも登録したサウンドを選択することができます。

## 第5章 ファンクションキー

1. Func + Esc (タッチスクリーン補正)
2. Func + 上矢印 (スクリーンのバックライト)
3. Func + 6 (タスクマネージャ)
4. Func + 7 (スキャナ設定)
5. Func + 8 (パワーマネージメント)
6. Func + 9 (デバイス情報)

### 5.1 Func + Esc

Func キーと Esc キーを押します。タッチパネル補正を実行します。スタイラスを使用して補正します。(第 3.3 章をご覧ください。)



ターゲットの中心をスタイラスで1秒ほど押さえて下  
離すとターゲットが移動します。同じ動作を繰り返しま  
キャンセルするには、ESCキーを押してください。





## 5.2 Func + 上矢印

Func キー + 上矢印キーを押すと、スクリーンのバックライトを切り換えます。



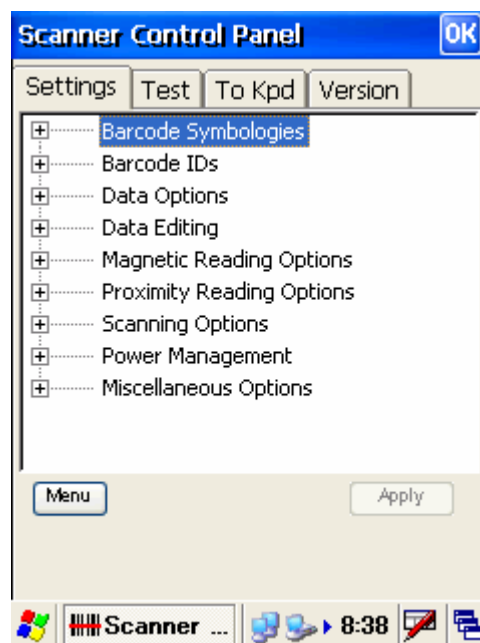
## 5.5 Func + 6

Func キーと数字 “6” キーを押すとタスクマネージャを実行します。



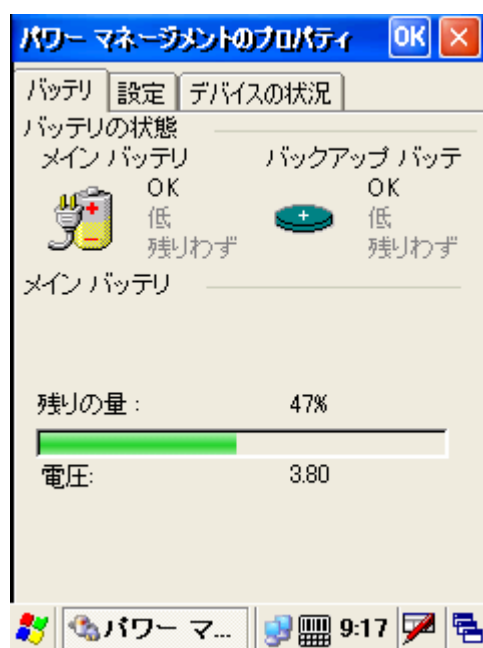
## 5.6 Func + 7

Func キーと数字 “7” を押すと、スキャナ設定を実行します。(第 2.5 章をご覧ください。)



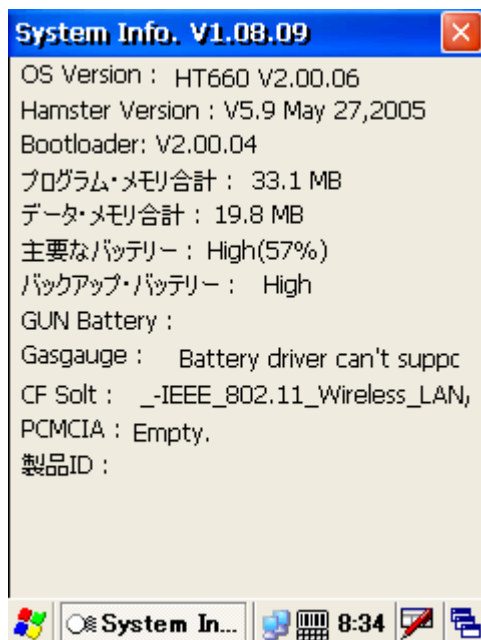
## 5.7 Func + 8

Func キーと数字 “8” キーを押すと、パワーマネージメントを実行します。



## 5.8 Func + 9

Func キーと数字“9” キーを押すとデバイス情報を表示します。(第 2.7 章をご覧ください。)



## 第 6 章 PRISM ドライバと Bluetooth

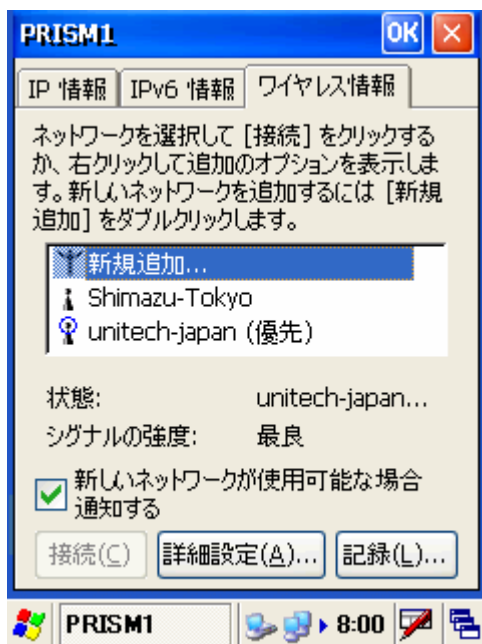
HT660(.NET 5.0) は PRISM ドライバと Bluetooth マネージャを組み込んでおり、これらは無線 LAN 接続の設定と Bluetooth デバイスのサーチを行うことができます。

1. Microsoft PRISM ドライバ
2. Bluetooth マネージャ

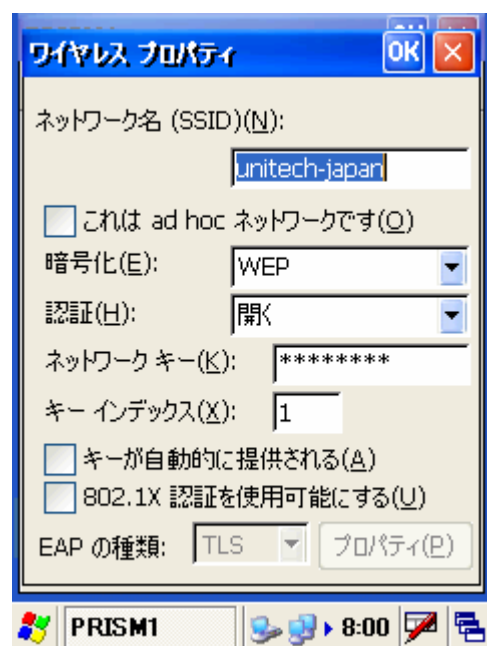
### 6.1 Microsoft PRISM ドライバ

Microsoft Prism ドライバは WiFi カードの汎用ドライバです。

1. PRISM ドライバのスクリーンが現れます。



2. 無線カードが無線ネットワークのサービス範囲にある場合、無線ネットワーク名 (SSID) が自動的に表示されます。ネットワーク名をダブルタップします。あるいは、“新規追加” をダブルタップしてネットワーク名を入力します。



### 3. 通常の場合;

暗号化      WEP

認証        開く

自動的なキーの提供は無効になっています。

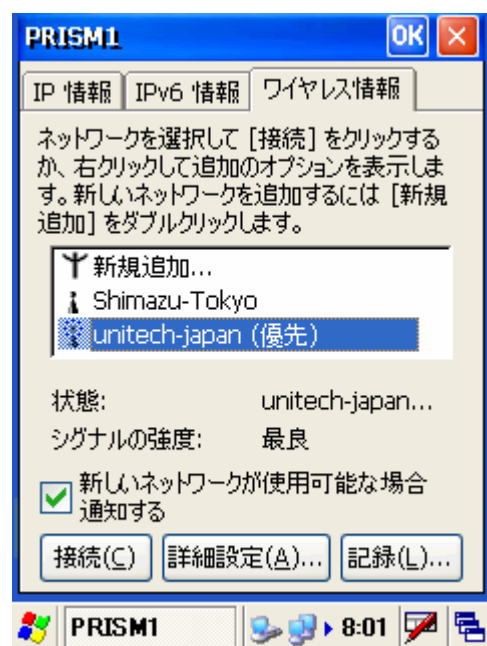
ネットワークキーを入力します。

40 ビット WEP 暗号化の場合は 5 文字を入力

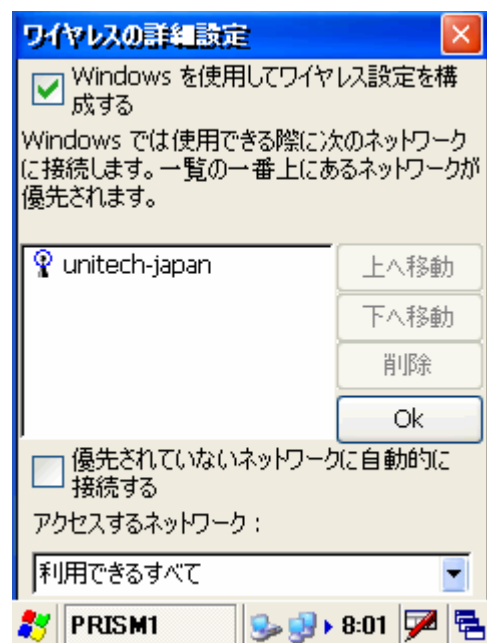
64 ビット WEP 暗号化の場合は 8 文字を入力

128 ビット WEP 暗号化の場合は 16 文字を入力

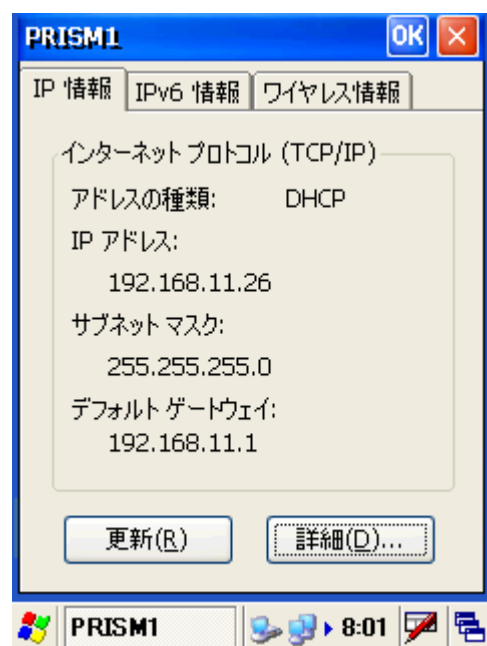
4. この設定の後、スクリーンは“ 接続 ” の状態を示し(数秒後に)そして信号の強度を示します。



5. 複数のネットワークを使用する場合、詳細設定ボタンで希望するネットワークをセットすることができます。



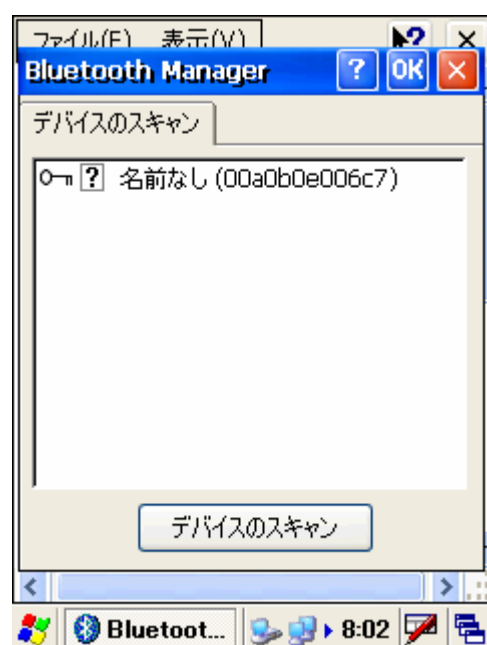
6. 通常の動作環境では、ネットワークへの接続はタスクバーのアイコンに示されます。



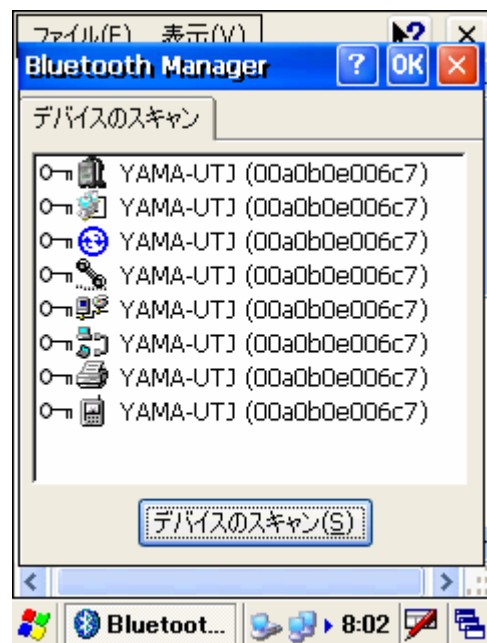
7. アイコンをダブルタップすると TCP/IP と無線ネットワークのパラメータを表示します。

## 6.2 Bluetooth マネージャ

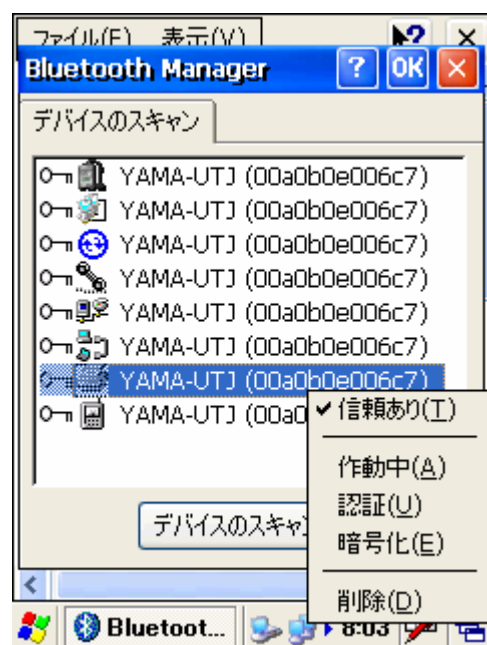
1. HT660 で、スタート>設定>コントロールパネル>Bluetooth デバイスのプロパティに進みます。



2. HT660.NET Bluetooth マネージャの “デバイスのスキャン” をタップします。



3. コンテキストメニューを出すためにプリンタアイコンをダブルタップします。





## 第7章 WiFi ツール

### 7.1 概要とインストール

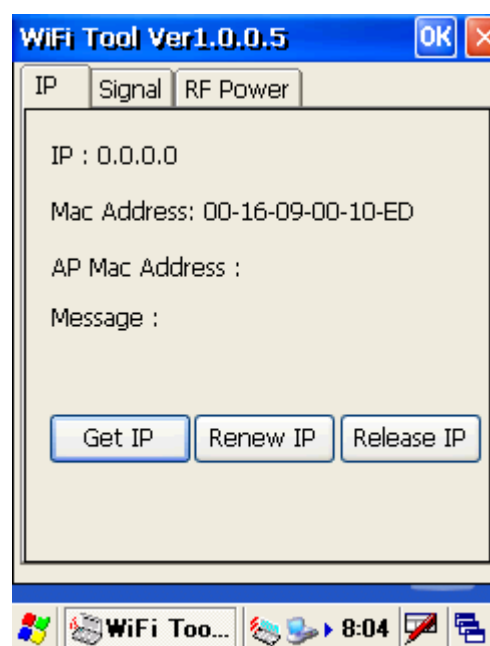
#### 7.1.1 概要

本ユーティリティは無線 LAN のサイトサーベイと日常の使用を助ける WiFi 関連ツールを提供する目的で作られました。

二つの大きな機能があり、その一つは DHCP ツールで、もう一つは信号強度とロギングツールです。DHCP ツールは IP を得ること、IP の更新、そして現在の IP をリリースします。信号強度とロギングツールは無線 LAN アクセスポイントの性能と WiFi 無線ネットワークカードの性能を確かめることができます。

### 7.2 DHCP ツールの使い方

7.2.1 DHCP ツールが提供する機能は三つあり、一つは “Get IP”、二番目は “Renew IP” そして最後は “Release IP” で、以下のように示されます：



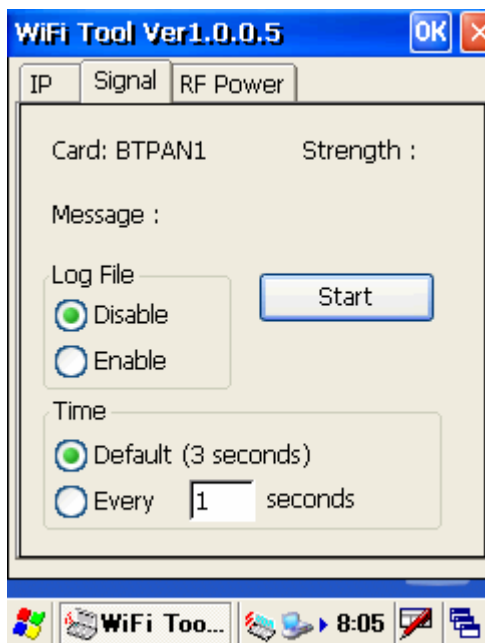
7.2.2 “Get IP” はターミナルがまだ IP を持っていない場合、そして DHCP サーバから得る必要がある場合に使用します。Get IP をタップしたら、DHCP サーバから IP を得られたら下図の様に表示されます。

7.2.3 “Renew IP” は以前に取得した IP が開放されたか、すでに無効になった場合に使用されます。“Renew IP” をタップすると以下のように DHCP サーバで IP が更新されます。

7.2.4 “Release IP” は共有される IP アドレスが十分でない場合、そして現在のターミナルが IP アドレスを必要としなくなった場合に使われます。“Release IP” をタップすると現在の IP アドレスはキャンセルされ、DHCP サーバは他のターミナルやコンピュータに IP を再割り当てすることができます。この結果は使用されていた IP が正常に開放された場合に以下のように表示されます。

## 7.3 信号強度ツールの使用方法

7.3.1 以下は“Signal Strength Tool”の最初の画面です。ここでは無線ネットワークの信号をモニタします。



ごらんの通り、信号強度のチェックを開始する前にいくつかのオプションがあります。最初のオプションはロギングオプションです；標準値は“Disable”で、ロギングは行わず表示のみです。Enable を選択した場合、ユーティリティと同じディレクトリの“log”と呼ばれるファイルに記録します。必要でない限りそのままにしてロギングオプションを使用しないことをお勧めします。これはターミナルの保存容量をたくさん使用します。

二つ目のオプションはステータスを更新する間隔です。標準値は3秒間です。二番目のオプションを選んで時間間隔を入力すると間隔を短くも長くもすることができます。すべてのオプションをセットしたら、“Start” をクリックします。プログラムは以下に示すように無線 LAN ネットワークの信号強度のモニタを開始します。

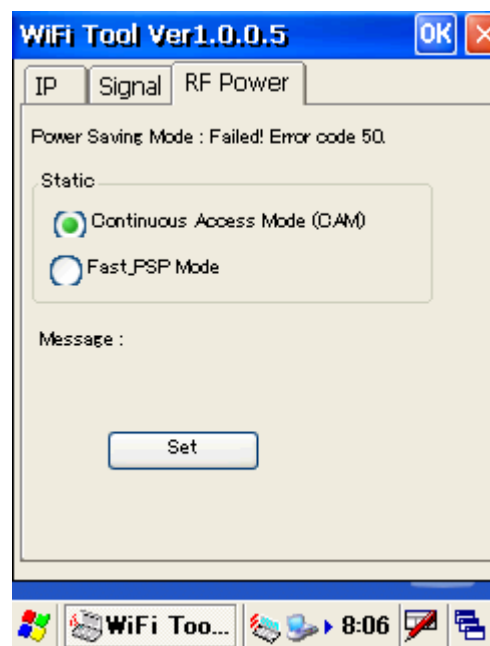
上記の図では現在の信号強度をメインスクリーンとスクリーン下部のツールバーの両方に表示しています。メインスクリーンの値はより正確で1%のステップで上下します。スクリーン下部の数値は粗く5%のステップで上下します。

スクリーンの左上角の“OK” ボタンをタップすることによってプログラムを最小化することができます。これには“EXIT”、“HIDE”そして“CANCEL”の3つのオプションがあります。プログラムを終了するには、“EXIT” を押し; ツールバーにプログラムを隠し簡単な表示だけを行うには“HIDE” を押し、そして何もしないでプログラムに戻るには“CANCEL” を押します。

隠れた状態からプログラムに戻るには、ツールバーの小さな信号強度インジケータをダブルタップします。プログラムはもとの隠れていない状態にもどります。

## 7.4 RF Power ツールの使い方

7.4.1 以下は RF Power ツールの最初の画面です。ここでネットワークカードを CAM (Continuous Access Mode: 連続アクセスモード) または消費電力の少ない Fast PSP モードにセットすることができます。



いずれかのモードを選択するために、希望するオプションに対応するラジオボタンをタップします。

7.4.2 上記の図は対応するラジオボタンを選択し、そして“set” ボタンをタップしたときにプログラムからの応答を示しています。